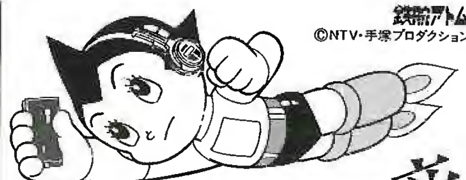




飛びだせ、いい音。
カプセル・サウンド。

軽快なフットワークが決め手だ。
青春のナイスシュート!





STEREO CAPSULE
ステレオカプセル300

TRQ-300
¥39,800

ヘッドホンで、カセットテープのステレオサウンドが楽しめる《ステレオカプセル300》。ステレオ録音OK、メタルテープも聴けて、ダビング用のデッキとしても使える実力派。さあ、「いい音」つれて街へ飛びだそう!

●レビュー/キュー機構 ●メカニカルポーズつき ●フルオートストップ機構 ●ワンタッチ録音方式 ●LEDによる録音/オペレーション(バッテリーチェック兼用)インジケーターつき ●自動録音(ALC)機構内蔵 ●Rチャンネル、Lチャンネル独立ボリュームつき ●3.5㎜直径ステレオ録音用外部マイク端子つき

●IC×2、トランジスター×6、ダイオード×4、LED×1●実用最大出力50mW(25mW+25mW)EIAJ/DC●2電源/DC:3V(単3×2)、AC:100V 50/60Hz(別売りACアダプターA-200使用)●大きさ幅174.5×高さ88.0×奥行25.0(㎜)●重さ400g(乾電池含む)
★小形・軽量ヘッドホン、専用キャリングケース付属

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

HITACHI

上手に使って上手に節電

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL.(03)502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL.(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い日立のクレジット

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立家電品取扱店へお気軽にどうぞ。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり大切に保存してください。★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

第10回世界選手権アジア予選

東京で開催

来春西ドイツで開かれる第10回世界選手権のアジア地域予選が東京で行われることになった——日本協会は、7月18日の緊急常務理事会で、AHF（アジア・ハンドボール連盟）から通達のあった世界選手権予選について協議、予選にエントリーした各国を極東、中東の二グループに分けるAHF案を了承、第2グループ（極東グループ）を9月、16、17、18の3日間東京で行うと決めた。

極東グループに参加するのは、日本、韓国、中国、台湾の4カ国で1回総当り、勝者が「アジア第1代表」として、本大会へ出場する。

なお、中東グループはクウェート、パレスチナ、イラクの3カ国リーグで、勝者が「アジア第2代表」となる。

第10回世界選手権
アジア予選第2グループ

▽第1日（9月16日・水）
17：30　韓国——中国
18：50　日本——中国台北
～駒沢屋内球技場～
▽第2日（9月17日・木）
17：30　中国台北——韓国
18：50　日本——中国
～東京体育館～
▽第3日（9月18日・金）
17：30　中国——中国台北
18：50　日本——韓国
～東京体育館～

中国が極東グループに追加

7月13日付でAHFから届いた通達では、参加国は6、それを3に分けて、というものであったが、28日になり、突然、中国の追加が伝えられ、極東グループは4と増えた。

中国のエントリーは、6月末の〆切り日には着かず、IHF（国際ハンドボール連盟）も、「不参加」としていたが、4週間後、AHFに突如、「参加」を伝えて来た。

中国のエントリーが、6月22日付で北京から発送されていることが分ったため、と伝えられるが、IHF、AHFとも〝真相〟は明きらかにせず、日本協会も、いまのところ、公式的に説明を求める動きは示していない。

8月3日に再招集された緊急常務理事会では、最終的には、AHFを経由したIHFの連絡を、無条件で受けいれることになり、7月26日に内定した「3カ国1回総当り」をご破算、別表のような「4カ国1回総当り」を決定、各関係筋に連絡した。

その結果、中国、韓国が相次いで日程の承認と参加の確認を伝えてきた。

レフェリーは各国滞同

日本協会が、今回の予選を、比較的すんなりと受け入れたのは、すでに昨年あたりから、日本で引き受けざるを得ないというムードが生まれ、つねに難問となる会場問題も、1年前に東京体育館が予約できたことで〝解決〟されていたからだ。

AHFの発足後、2回のアジア選手権はクウェート、南京、オリンピック予選や世界選手権予選は台湾、韓国が主会場となり、〝先進国〟の日本は、つねに遠征をつづけていた。

しかし、各国は、かねてから日本でのビッグ・イベント開催を強く要望、昨年、AHF理事に日本が2名を送りこんだことから、いっそうその声が高くなった。

このため、日本協会は今春5月の世界ジュニア・アジア予選の主要カード引き受けと合わせて、今回の誘致を、前向きに検討していたものである。しかし、経費の節減と、今後のアジア球界の事情を考慮して、レフェリーは、参加国から滞同を義務づけるなど、運営面に工夫をこらしている。

試合法式は、常識的には2回総当りだが、AHF、参加各国の了解もあって1回総当りとなった。

使用球は「アディダス」が指定され、大会の技術責任者（競技委員長）に、AHFは荒川清美氏（AHF理事、日本協会専務理事）を指名している。

日本、楽勝は望めず？

ところで、今回の予選における日本の道のりは、かなりけわしいというみかたが強い。

もちろん、少々の苦戦はあっても、日本の代表権獲得は間違いなかろうが、中国の成長、韓国の充実は、楽観を許さない。

両国とも、ここ数年「打倒日本」を目標にかかげ、確実に日本との差を詰めてきている。特に、来年11月のアジア競技大会（インド）での初採用が決まって以来、各国の意欲はいちだんと高まっており、さらに2年後のロサンゼルス・オリンピック予選へとつづくだけに今回の予選は〈最初の激突〉ということもできる。

台湾は「中国台北」の名称で

日本協会・荒川専務理事は、今回の予選における台湾の名称は、IHFの決定どおり「中国台北」が使用され、英字の略称は「TPE」とすることを明きらかにした

なお、中国×台湾戦が行われるのは、中国のIOC（国際オリンピック委）復帰後、オリンピック種目では今回のハンドボールが初めてである。

『ハンドボール』

56年8月号（第199号）目次

【表紙写真】第6回日本リーグ前期。男子大同×湧永戦

提供・スポーツイベント

■第6回日本リーグ前期総評■

大同，湧永が並ぶ（男子）

立石、ジャスコ共に全勝で折り返す（女子）

■男子総評■

前期の勝敗表は、結果的には、順当な感じを抱かせるが、15試合の道のりは、どうして、なかなか波乱ぶくみだった。

その最大の目は、第2週で本田技研鈴鹿（三重）が、大同特殊鋼（愛知）に、逆転勝ちした一戦である。

卒直のところ、第1週で三陽商会（東京）と引き分けた本田への期待は、あまり高いものではなかった。

後半10分15－11をタイに持ちこまれた三陽との試合ぶりは、まさか、常勝・大同に土をつけるとは思えず、専門家たちの目も、一足とびに、いつものように大同×湧永戦へ飛んでいたのである。

ところが、大同戦では、見ちがえるようなまとまりを見せ、堂々の逆転勝ちをおさめたのだ。

後半開始直後7－11の戦況は、これまでの本田なら、1、2回の抵抗を示すだけで、ズルズルと寄り切られてしまうのだが、この日は、23分15－15のあと、残り7分間、大同を無得点におさえ、この守りの粘りを、勝利へつなげてみせた。

かねてから、大同、湧永薬品（広島）と、他チームの差がありすぎ、ファンの興味をそいでいただけにこの本田の一勝は、離れつつあったファンの注目を集めなおす効果があった。

	大同	湧永	本田	日新	イーグルス	三陽	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
大同特殊鋼		○	●	○	○	○	4	0	1	8	116	86	30	1
湧永薬品	●		○	○	○	○	4	0	1	8	140	82	58	2
本田技研鈴鹿	○	●		○	○	△	3	1	1	7	102	92	10	3
日新製鋼	●	●	●		●	●	0	0	5	0	82	124	−42	6
大阪イーグルス	●	●	●	○		○	2	0	3	4	107	132	−25	4
三陽商会	●	●	△	○	●		1	1	3	3	101	132	−31	5

これでにわかに次の湧永戦が盛り上った。

この試合も本田はいちち4点差をつけられていたのを食いつき、後半20分18－18、あるいはの期待をコートサイドに抱かせたものだ。

しかし、そのあとPT1本を含む5本のシュートに失敗、湧永に名を成さしめた。

湧永が、警戒を強め慎重に来たこともあったが、ここで、本田が勝利をあげるようなら、リーグはさらにエキサイトした展開になったろう。

本田の本当の力は、三陽戦なのか、大同戦なのか、湧永戦なのか答えは後期に出るが、湧永戦の負けかたは、もう一つ、このチームへの不安を抱かせる。

さて、改めて、その戦力を見直されたのが、大同だ。

本田戦の黒星は、それまでにも指摘されはじめていた主力選手の老けこみにあるともみられ、湧永戦の予想は、圧倒的に不利であった。

だが、フタをあけてみるとスタートから近来にない積極攻撃を示し、15分7－2とリード。守っては成長いちぢるしい池ノ上をマーク、気迫のこもったプレーで、後半15分15－10は、完全に横綱相撲といえた。

もし、この一戦を落とせば、リーグ優勝はおろか、あらゆる大会で湧永、本田の後位につけなければならぬ、という切迫感が、久々に大同らしい試合を見せることになったのだ。

大同のこの踏みとどまりは、さすがに前王者。後期の壮烈な試合ぶりが、いまから楽しみである。

Bクラスでは、日新製鋼（広島）の5連敗に不満が残る。

本田に代ってナンドー・スリーの座も、といわれた期待に押しつぶされたのか、いささか攻撃策戦におぼれすぎ、そのため守りのリズムまで崩してしまった。

後期緒戦（11月14日）の本田戦をどう進めるかで、〝今年〟が決まろう。

大阪イーグルス（大阪）は、相変らずの巧さで2勝はみごと。マイペースに相手を引きこむ〝伝統の戦略〟に、三陽も日新も、はまりこんだ。

三陽商会（東京）は、本田戦ドローという好スタートを切りながらその勢いを持ちこめなかった。

二部は大阪ガス（大阪）、中村荷役運輸（東京）の新加盟で8チームとなり、いちだんと活気づいたが各チーム戦を終えて、予想どおり大崎電気（埼玉）が無敗でトップ以下、1分けの三景（東京）、1敗のトヨタ車体（愛知）とつづく。

すでに中村は、大崎、三景戦を終えており、トヨタに2強を連破する力は、まだないと思われるだ

けに、前年同よう、大崎、三景が1部への挑戦権を手に入れることとなろう。

■女子総評■

大乱戦の前年の展開が、今年もそのまま持ちこまれそうな気配。ただし、4強の顔ぶれはブラザー工業(愛知)、大崎電気（埼玉）が進出、日立(栃木)、日本ビクター（茨城）が後退している。

	立石	ブラザー	ジャスコ	日立	ビクター	大崎	北国	ムネカタ	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
立石電機	＼			○	○	○	○		4	0	0	8	75	42	33	
ブラザー工業		＼		○		●	○	○	3	0	1	6	88	57	31	
ジャスコ			＼		○	○	○		3	0	0	6	81	45	36	
日立栃木	●	●		＼	○				1	0	2	2	42	50	−8	
日本ビクター	●		●	●	＼			○	1	0	3	2	66	64	2	
大崎電気	●	○	●			＼		○	2	0	2	4	70	69	1	
北国銀行	●	●	●				＼		0	0	3	0	32	88	−56	
ムネカタ		●			●	●		＼	0	0	3	0	24	63	−39	

特にビクターは、ムネカタ（福島）に勝っただけという低調、日立戦も落しているため、5位確保さえ苦しい戦況である。

日立も、主砲・島田の退陣の穴が埋まり切らず、そのうえ、伊藤監督の出向があって、歯切れの悪い試合がつづいた。後期のジャスコ、大崎戦を、どう戦うかが、残された道。

さて、上位戦線は、全日本実業団（5月、既報）を争った立石電機(熊本)、ジャスコ（三重）が、まずまずのデキで無敗、早くも、両者での優勝争いは確実という声がとんでいる。

しかし、そのみかたは、当然ながら早計だ。

ブラザーが、バランスのとれた攻守で、後期にかけているからである。

今となってみれば、ホームコートでの大崎戦を落したのが痛かろうが、立石、ジャスコを崩すだけのチーム力は、充分ある。

三者の対決は、11月22日立石×ジャスコ、23日ジャスコ×ブラザー、29日立石×ブラザーとなっており、今から胸がときめく。

立石は、2年目の木下がいちだんとプレーに鋭さと幅が加わり、ディフェンスも8チーム随一の動きがある。



立石のエース木下

各チームが、若手主体で柱の選手を育成中の時だけに、紀野の頑張りも、いぜん大きい。

ジャスコは、同じように松下の存在があり、攻撃力では、伝統の速攻も冴え、立石をしのぐものがある。

Aクラス入りを狙い、あわよくばタイトルをと意気ごんでいた大崎電気は、クラスへの希望は残るが、すでに立石ら3強との顔合せを終え、ブラザーからの1勝に留っているため、優勝は、上位につまづきがない限り、難しい。

しかし、チーム力は確実に上向いており、後期には、男女を通じて初めての外人選手として、韓国のスター・李相玉と李京姫（ともに七八年世界選手権代表）を迎えることが決定、大きな話題を集めそうだ。

李相玉のパスワーク、李京姫の強シュートは秀逸で両選手とも峠をすぎているとはいえ、まだまだ日本リーグの看板になり得る実力者である。

北国銀行（石川）と復活のムネカタは、ともに勝ち星がないまま後期に向かうが、ゲームスタミナに欠け、このあとも善戦が精いっぱいではなかろうか。

お互いの対戦に白星を狙うだけではなく、ムネカタには、上位に一矢をの捨て身の斗志が欲しいし北国には、残り4戦全勝の気構えを望みたい。選手の顔ぶれからみて、その可能性はあり、奮起を期待したい。

ところで、女子（成年）は、初のハーフ30分制を採用している。

これまで以上に実力差が現われファンの失望を買うのではないかと不安がられたが、全14試合のうち、二桁得点差は5試合だけ。前期はかなり上、下位対戦があってこれだけの数字だ。一応〝及第〟といえるだろう。

むしろ、得点が増え、スタンドの興味をつのらすという好結果が出ている。

後期は、夏合宿でのスタミナ養成度がスコアに現れてくるため、ラフな試合の心配が、まったく解消したわけではないが、前期をみた限りでは「スムースな移行（各ハーフ5分延長）」といっておこう。

来年の世界選手権予選を控えてスケールの大きい若手の登場を待望する声が高いが、ムネカタ戦で14ゴールを叩き出した志村（日ビ）をはじめ、前田(日立)、太田(ブラ)、寺沢(ジャ)、高光(日ビ)ら好素材がたのもしい顔を並べている。

2チームだけの2部は、後期も重機が大和をおさえこみそうだ。

第6回日本リーグ前期 個人得点ベスト 20傑

◇……男子……◇

①辻　本（大阪）44(内ＰＴ７)
②　関　（三陽）37(　2)
③池ノ上（湧永）36(　8)
④蒲　生（大同）35(　12)
⑤坂　本（本田）25(　0)
⑥吉　見（日新）24(　8)
⑦佐々木（本田）23(　11)
⑧大　原（大同）21(　1)
⑨松　本（湧永）19(　0)
⑩山　口（三陽）18(　6)
⑪津　川（湧永）17(　0)
⑪穂　積（湧永）17(　0)
⑪小　野（大同）17(　1)
⑭生　駒（湧永）16(　0)
⑭金　子（三陽）16(　4)
⑯高　橋（本田）15(　0)
⑯山　本（湧永）15(　4)
⑱柳川弟（大同）14(　0)
⑱源　野（大阪）14(　0)
⑱徳　田（日新）14(　0)

◇……女子……◇

①志　村（日ビ）29(内ＰＴ19)
②木　下（立石）23(　5)
③植　田（ブラ）22(　7)
④山　本（ジャ）19(　4)
④桑　原（立石）19(　5)
④　西　（大崎）19(　5)
⑦竹　内（ブラ）16(　0)
⑧八　木（北国）15(　3)
⑧寺　沢（ジャ）15(　4)
⑩石　井（大崎）14(　2)
⑩辻　本（ジャ）14(　3)
⑫松　下（ジャ）13(　0)
⑬陽　田（大崎）12(　0)
⑬高　光（日ビ）12(　1)
⑬水　上（日立）12(　3)
⑯數　田（立石）10(　0)
⑯増　永（ブラ）10(　0)
⑯伊　藤（日ビ）10(　0)
⑲則　武（ブラ）9(　0)
⑲横　山（ジャ）9(　0)
⑲前　田（日立）9(　0)

第6回日本リーグ前期戦いの跡

◇第1週第1日（6月13日・市川市民体育館・千葉）

▽女子

立石電機（1勝）19（9−3、10−7）10 日本ビクター（1敗）

	【日ビ】	得	【立石】	得
GK	渡辺	0	井村	0
GK	高橋	0	荒木	0
FP	染谷	2	姫野	1
FP	伊藤珠	2	桑原	5
FP	岩城	0	木下	5
FP	村上	1	紀野	1
FP	志村	3	藪田	3
FP	中根	0	羽立	1
FP	高光	2	福永	0
FP	伊藤栄	0	喜久山	1
FP	門脇	0	亀園	0
FP	池田	0	岩村	2

（審・大塚 佐分）

19（5）PT（2）10

○…新人・高光をロングシューター役にすえてスタートを切りたかったビクターだったが、その高光が3日前に右手指を負傷、本来はサイドシューターのハズのキャプテン染谷がロング役をやらねばならない苦しい布陣。ビクターの大砲が志村ひとりになってしまうのを知っている立石ディフェンス陣は、ディフェンスラインを下げてポストを守る作戦。この作戦が立石の前半の猛攻につながる。

攻め手を欠くビクターは、カットインやポストへのパスで、なんとかラインぎわまで進もうとするのだが、下がりぎみの立石ディフェンスのチェックが激しく、思うように入りこめない。立石はビクター攻撃陣を引きつけておいて苦しまぎれのパスをカットし、再三の速攻につなげた。さらに、木下の小気味よいステップシュートなどで点を重ね、前半のうちに試合を決定づけてしまった。

▽男子

湧永薬品（1勝）32（15−10、17−9）19 大阪イーグルス（1敗）

	【大イ】	得	【湧永】	得
GK	本田	0	福井	0
GK	信貫	0	井藤	0
FP	源野	0	津川	1
FP	足羽	0	生駒	5
FP	大西	1	穂積	4
FP	早川	1	藤本	0
FP	福井	1	志賀	1
FP	辻本	9	戸田	4
FP	杉尾	0	内田	0
FP	三谷	2	松本	4
FP	藤本	5	山本	4
FP	千野	0	池ノ上	9

（審・岡本 住尾）

32（5）PT（6）19

○…スタートでイーグルスの辻本がロングを連発させて、3−1、5−2、6−3と10分までリードを保つ健闘を見せた。ディフェンスの立て直しに躍起となっていた湧永は、前半なかばからようやく元気を取り戻す。3−6の場面から、穂積、池ノ上、戸田、松本などで速攻を繰り出し、一気に6点連続ゴールをあげ9−6と逆転、格の違いを見せつけた。

イーグルスも、ようやく若手への切り換えを成功させてきた感じで、辻本、三谷、大西、勝本らがハツラツとしたプレーを見せる。とくに、9点をあげた左腕エース辻本は大車輪の働きぶり。湧永は初戦ということで波に乗りきれずシュートは個人技に頼りがちだったが、それでも勝利には危げがなかった。

◇同（駒沢屋内球技場・東京）

▽女子

ジャスコ（1勝）21（9−9、12−9）18 大崎電気（1敗）

	【大崎】	得	【ジャ】	得
GK	藤村	0	山本一	0
GK	梅野	0	矢部	0
FP	西	10	辻本	5
FP	陽田	1	松下	4
FP	宮嶋	0	宮崎	0
FP	石井	4	山本二	4
FP	渡部	0	横山	1
FP	徳渕	3	松岡	2
FP	山沢	0	若田	2
FP	嘉本	0	若林	1
FP	小笠原	0	寺沢	2
FP			鷲野	0

（審・菊池 清水）

21（4）PT（3）18

○…2年ぶりのリーグ優勝に意欲を燃やすジャスコに対し、大崎電気はエース西、石井のロング二枚と陽田のサイド、徳渕のポストなどで応戦。後半なかばまで一進一退の激しい攻防を繰り広げた。

新人・寺沢、鷲野（ともに市邨学園高出）らの若手を起用していたジャスコは、得意のローリングの歯車がいまひとつ嚙み合わず、大崎のロング攻勢に苦戦をしいられていたが、大崎にPT失敗などがあって得点ペースが落ちたスキに辻本、横山の活躍で後半17分、16−13として主導権をキープした。大崎は主砲・西の奮戦で懸命に追撃したが、松下、若田らで的確にシュートを決めるジャスコの前に、あと一歩のところで力尽き善戦にとどまった。

▽男子

本田技研（1分）19（11−10、8−9）19 三陽商会（1分）

	【三陽】	得	【本田】	得
GK	大山	0	大畑	0
GK	田村	0	細野	0
FP	関	9	長野	0
FP	金子	2	佐藤	1
FP	坪子	2	喜井	0
FP	稲木	0	豊岡	3
FP	山口	4	佐々木	4
FP	石原	1	矢野	3
FP	鵜沢	1	高橋	3
FP	斎藤	0	坂本	5
FP			三本松	0
FP			栗野	0

（審・島田 後藤）

19（2）PT（2）19

○…大同、湧永の〝二強〟の堅城を崩す一番手と見られた本田技研だったが、三陽商会の執ような粘りにあって再三のリードを守り切れず、タイムアップ寸前に三陽の速攻ゴールを許して引き分けに終った。

三陽は主砲・関のロングが快調に決まって先行する本田に一歩もヒケを取らず、前半はタイスコアになること8回という活発な打ち合いで11−10と本田が僅かにリード。本田は矢野、坂本のサイド陣の活躍で後半6分13−10、11分15−11、13分16−13とつねにリードをキープしていたが、喜井、佐々木の45度からの攻撃がふるわず、あと1本の追い討ちがなかった。

勝負所の終盤に入って本田のサイド陣へのディフェンスを厚くした三陽は、射程距離に本田をとらえて懸命に食い下がり、残り2分17−19から山口のカットインで得たPTを関が決めて1点差、そして残り15秒、坪子の会心の速攻で本田ゴールをゆるがし粘って引き分けに持ち込んだ。本田の後半のシュート数を16本に抑えた三陽の積極的なディフェンスが光った一戦だった。

◇第1週第2日（6月14日・福島市体育館）

▽男子

大同特殊鋼（1勝）30（18−8、12−11）19 三陽商会（1分1敗）

	【三陽】	得	【大同】	得
GK	大山	0	柳川清	0
GK	田村	0	上村	0
FP	関	8	中井	2
FP	金子	5	柳川実	1
FP	坪子	2	大原	5
FP	稲木	0	中本	1
FP	山口	2	浦田	2
FP	石原	1	蒲生	14
FP	鵜沢	1	更谷	0
FP	斎藤	0	小野	5
FP			田中	0
FP			田口	0

（審・村上 田中）

30（4）PT（5）19

○…前半立ち上がり、三陽は山口のPTにより先行、一方の大同も3分過ぎ大原がミドルを決め1−1とする。その後、大同は蒲生らを中心として連取、あっさりと主導権を握って前半を10点リード。後半は両チームGKの好守が光り、一進一退の攻防となるが、前半の大差がものをいい、大同の快勝となった。この試合、大同の蒲生は全日本エースアタッカーの貫録を見せ14得点をあげた。

▽女子

プラザー工業（1勝）19（9―4、10―4）8 ムネカタ（1敗）

【ムネ】	得		【プェ】	得
清水	0	GK	屋比久	0
岩瀬	0	GK	中村ま	0
広田	1	FP	杏原	6
岡野	4	FP	竹内	2
吉田	2	FP	則武	2
横田	0	FP	塩谷	0
石田	1	FP	増永	2
大河原	0	FP	太田	1
米野	0	FP	植田	3
落合	0	FP	尾崎	0
佐藤	0	FP	松下	2
佐野	0	FP	中村文	1
8	（2）	PT	（2）	19

（審・勝山、森）

○…一部復帰を果たしたムネカタは、前半執ようなセット攻撃からシュートを再三試みるが、プラザーディフェンスのカベは厚く、得点に結びつかない。一方のプラザーは、長身の杏原を中心に、セット、速攻と着実に点を重ね前半を9―4とリード。後半に入ってもプラザーのディフェンスは崩れず、ムネカタの攻撃を寄せつけなかった。プラザーは、前半に続く攻撃のリズムを保ったままタイムアップへとなだれこんだ。一部返り咲き初戦としてのムネカタ8得点は善戦といえたが、ディフェンスに甘さがあるのは否めない。

◇同（浦和市民体育館・埼玉）

▽女子

立石電機（2勝）19（9―7、10―8）15 大崎電気（2敗）

【大崎】	得		【立石】	得
藤村	0	GK	井村	0
梅野	0	GK	荒木	0
西	6	FP	姫野	1
陽田	6	FP	桑原	7
宮嶋	0	FP	木下	5
石井	3	FP	紀野	2
渡部	0	FP	藪田	2
徳渕	0	FP	羽立	2
山沢	0	FP	喜久山	0
嘉本	0	FP	亀園	0
小笠原	0	FP	是枝	0
		FP	岩村	0
15	（4）	PT	（4）	19

（審・岡本、住尾）

○…優勝候補のひとつ立石にダークホース的な存在の大崎が挑んだ。立石が速攻をまじえて2点先行、大崎も負けじと速攻を繰り出して4点連取、4―2と逆転、波乱を予想させるスタートになった。

6―5とされた前半残り10分から立石はディフェンスシフトを一歩前へつめる形に変化させた。このディフェンスがみごとに功を奏し、大崎のセット攻撃のパスをインターセプトすること連続3回、一気に3点連取して再逆転、前半を9―7とした。この前半のリードを立石は守りぬく。後半に入ってすぐの2点連取も立石にとっては有利な逃げ切り得点だった。追い上げを図る大崎は、必死の攻撃でエース西のロングを中心に一時は13―15まで追いつくのだが、立石・木下のフェイントからの中央突破を続けて許すなど、失点を食いとめることができず手痛い2敗目を喫することになった。

▽男子

湧永薬品（2勝）34（20―4、14―6）10 日新製鋼（1敗）

【日新】	得		【湧永】	得
西川	0	GK	大城	0
三田	0	GK	福井	0
泉	2	FP	津川	6
徳田	1	FP	生駒	4
大庭	1	FP	穂積	5
吉見	5	FP	藤本	2
洞ケ瀬	0	FP	志賀	1
脇若	0	FP	戸田	4
日野	0	FP	松本	3
森	0	FP	山本	2
甲斐	1	FP	溝部	0
一瀬	0	FP	池ノ上	7
10	（0）	PT	（1）	34

（審・北井、上久保）

○…湧永薬品がスタートから飛ばし、精彩を欠く日新製鋼を全く寄せつけなかった。池ノ上、津川のサイドからの連取で始まった湧永の攻撃はとどまるところを知らず、日新が1点を取る間に、3点連取、4点連取、5点連取などを繰り返し、大量リードを奪った。日新も何とか食い下がろうとするのだが、足のよく動く湧永ディフェンス陣に阻まれ、いいところがなかった。

なお、この試合で湧永の山本は前半10分のペナルティースローをゴール外にはずし、昨年のリーグに続く2年連続PT全打席得点の夢は破れ去った

◇同（栃木県体育館）

▽男子

本田技研鈴鹿（1勝1分）29（17―7、12―11）18 大阪イーグルス（2敗）

【大イ】	得		【本田】	得
本田	0	GK	細野	0
信貫	0	GK	大畑	0
源野	4	FP	長野	1
足羽	0	FP	佐藤	1
大西	1	FP	喜井	6
早川	0	FP	豊岡	1
福井	0	FP	佐々木	7
辻本	7	FP	矢野	1
杉尾	1	FP	高橋	1
三谷	2	FP	坂本	8
勝本	3	FP	三本松	1
千野	0	FP	栗屋	2
18	（2）	PT	（5）	29

（審・広沢、山下）

○…前日、三陽商会に食い下がられて引き分けた本田技研は、この試合もスタートからイーグルスの気迫のこもった攻守に押され気味となって、10分過ぎには3―7と劣勢をしいられた。しかし、イーグルス・源野の2分間退場の間に3連続ゴールを奪ってペースを取り戻した本田技研は、それまでのもたつきが全くウソのように速攻展開から次々とイーグルスゴールに襲いかかり、キャプテン佐々木を中心に、喜井、ヤングの先兵・坂本らで前半14分からなんと15ゴール連取の猛攻、後半3分に18―7として一気に試合の大勢を決めた。スタートこそ辻本、源野の果敢なシュートで有利に試合を進めていたイーグルスだったが、前半なかば過ぎからGK大畑を軸とする厳しいディフェンスに沈黙してしまった。

本田技研の2年目の若手・坂本はサイド、速攻で8得点を記録する大活躍、5年連続最高シュート率賞の偉業を狙う湧永・松本義樹の有力な対抗馬になりそうだ。

▽女子

日立栃木（1勝）16（8―8、8―6）14 日本ビクター

【日ビ】	得		【日立】	得
渡辺	0	GK	寺沢	0
高橋	0	GK	斎藤	0
梁谷	2	FP	吉田	0
伊藤珠	2	FP	水上	5
岩城	1	FP	大高	1
村上	1	FP	大輪	1
志村	6	FP	栗原	1
中根	1	FP	小根沢	3
高光	1	FP	西山	1
伊藤栄	0	FP	小池	0
門脇	0	FP	前田	4
池田	0	FP	土屋	0
14	（9）	PT	（5）	16

（審・菊池、清水）

○…主力の引退で大きく若返った両チームの一戦は、1点を争う攻防戦から、終盤に入ってエース水上、そして栗原、西山の若手の活躍で混戦を抜け出した日立栃木が、終了2分前に小根沢から水上に渡る鮮やかなスカイプレーを成功させ、粘るビクターの追撃をGK寺沢が冷静にさばいて初戦を初白星で飾った。

フェイントからのカットインと速攻を武器に日立陣内に攻め込んだビクターだったが、やはりロングからの展開がないと苦しい。後半は日立GK寺沢の好守もあってビクターが得点した6ゴールは全てがPTでのもの。要所でミドルを決めた水上を持つ日立栃木との決定力の差が、そのまま試合結果に表われたといっていいだろう。

なお、この試合でビクターが記録した9PT得点はリーグタイ記録、両軍合計PT得点の14はリーグ新、両軍合計PT数（失敗数も含む）の18（ビクター11、日立7）もリーグ新記録だった。

◇第2週第1日（6月20日・彦根市民体育センター・滋賀）

▽女子

プラザー工業（2勝）19（10―8、9―9）17 日立栃木（1勝1敗）

○…開始早々、杏原のロングで先制点を奪ったプラザーは、ヒザの故障で欠場した山村に代わる尾

【日立】		得
寺沢	GK	0
斎藤	GK	0
水上	FP	3
大高	FP	1
大輪	FP	3
栗原	FP	0
小根沢	FP	3
西山	FP	1
小池	FP	0
手打	FP	2
前田	FP	4
土屋	FP	0

【ブ工】		得
屋比久	GK	0
中村ま	GK	0
杏原	FP	2
竹内	FP	4
則武	FP	2
塩谷	FP	0
増永	FP	2
植田	FP	4
山村	FP	0
尾崎	FP	4
松下	FP	0
中村文	FP	1

（審・福井、狩野）

19（3）PT（4）17

崎の活躍などで日立栃木の出バナをくじき、前半なかばを過ぎてからは得意の速攻に竹内のミドルをおりまぜて21分8―4と主導権をキープ。これに対し日立は、ブラザーの主砲・杏原にマンツーをあてて防戦につとめる一方、ポスト周辺からの切り崩しで追撃を開始前半残り3分に8―9と迫り、さらにブラザー杏原が2分間退場という願ってもないチャンスを迎えた。しかし、このピンチにブラザーは踏ん張り、GK尾比久が2本のPTをさばいたばかりか、植田がサイドから飛び込んで10―8として前半を終えた。

結局この攻防が最後までものをいう。後半、日立は小根沢、大輪の鋭い切り込みなどで激しくブラザーを追ったが、1点差まで詰め寄るのが精一杯、残り5分にブラザーの速攻を許し、16―19と水をあけられて万事休した。

終始リードを保ったブラザーは再三にわたってPTをはずすなどいまひとつペースに乗れなかったが、GK屋比久の好守と地元・彦根南高出身の尾崎の活躍が目立って日立の追撃を阻んだ。

▽男子

本田技研鈴鹿（2勝1分）16（9―5、7―10）15 大同特殊鋼（1勝1敗）

【大同】		得
柳川清	GK	0
上村	GK	0
中井	FP	2
柳川実	FP	3
大原	FP	2
中本	FP	2
浦田	FP	3
蒲生	FP	1
更谷	FP	0
小野	FP	2
田中	FP	0
田口	FP	0

【本田】		得
大畑	GK	0
細野	GK	0
長野	FP	0
佐藤	FP	0
喜井	FP	1
豊岡	FP	1
佐々木	FP	5
矢野	FP	2
高橋	FP	3
坂本	FP	4
三本松	FP	0
栗屋	FP	0

（審・島崎、丸岡）

16（2）PT（0）15

○…残り1分15―15の同点からサイド上がりのミドルを決めた坂本の勝ち越しゴールで本田技研が殊勲の金星、国内タイトルがかかった試合で大同は初めて本田に黒星をつけられた。

大同は、中本、柳川実らで常に先行していたものの、エース蒲生の動きを本田の執ようなマンツーマンディフェンスに封じ込まれ、なかなか本来のペースに持ち込めないまま、ズルズルと本田に食い下がりを許して後半を迎えた。7―10と3点差の射程距離につけて前半を折り返した本田は、後半のすべり出しで蒲生、浦田に打ち込まれて4点差と水をあけられたが少しもひるまずニューパワー坂本の連続速攻で再び息を吹き返し、さらに豊岡のポスト、坂本の速攻で10分過ぎに12―12の同点に持ち込んだ。

大同はベテラン中井を投入して懸命に建て直しを図ったが、その前に大きく立ちふさがったのが本田GKの大畑。大畑は6分に蒲生のPTを好キープしたのに続き、12分、16分と蒲生が放ったPTをことごとくシャットアウト、大原のノーマーク速攻や中本のポストからの強シュートも次々と阻み、なんと大同を後半5分から15分間にわたってピタリと沈黙させたのだ。この大畑の大車輪の活躍で元気づいた本田は、今度は小兵・高橋がラッキーボーイに。14分にPTを誘うカットインで大同ディフェンスを崩したのをはじめ、11分、18分とポストから倒れ込んで2ゴール連取、大同に3点差のリードをつける原動力となった。

さすがの大同も浮き足立った。ポロリポロリとミスが出る。それでも王者の意地を見せ、浦田のポスト、中井の速攻とカットインで3連続ゴール、残り5分15―15として先行する本田をとらえたかに見えた。これまでの大同だったらここで一気にスパートして本田を抜き去ったに違いない。だが、せっかくの盛り上がりも、本田のゆっくりとした試合運びに闘志がから回り、ディフェンスにも焦りがうかがえた。そんな大同のスキをついたのが残り1分からの本田・坂本の勝ち越しゴール。サイドから上がってジャンプ一番、パスを狙うと見せてのミドルが大同ゴールの右下すみに突き刺さった。

すぐさま大同も反撃に転じ、蒲生が強引に切り込んでシュートを放ったが、GK大畑が冷静にさばいてタイムアップ。湧き返る本田ベンチとはあまりに対照的に大同セブンはガックリと肩を落とした。大同にとっては痛恨の1敗。この試合、わずか1ゴールに終わったエース蒲生は、3本のPTを失敗して37試合継続していたPT連続試合得点の快記録もついにピリオドが打たれてしまった。

◇同（6月20日・雀人町体育館・鹿児島）

▽女子

立石電機（3勝）20（12―5、8―3）8 北国銀行（1敗）

【北国】		得
酒谷	GK	0
辻	GK	0
西出	FP	0
八木	FP	5
木内	FP	0
中田	FP	0
竹	FP	0
山崎	FP	0
橋本	FP	0
木戸	FP	2
本田	FP	1
庄田	FP	0

【立石】		得
井村	GK	0
荒木	GK	0
姫野	FP	0
桑原	FP	5
木下	FP	8
紀野	FP	0
藪田	FP	1
羽立	FP	2
喜久山	FP	1
是枝	FP	1
亀園	FP	2
牧野田	FP	0

（審・福田、松尾）

20（5）PT（2）8

○…立ち上がりから鋭いカットインで割って入る立石の攻撃に、北国はついていけず、前半5分までにペナルティを連続して決められ、以後も立石のペースで試合は進んだ。しかし、立石も本調子とはいえず、持ち前のスピードに欠け、桑原や木下が単発的に打っていく展開。それでもテクニックに勝る立石に北国のディフェンスはふりまわされた。

後半に入っての立石は、ようやくパスが回り始めスピード感あふれる展開となった。北国もなんとかシュートには持ち込むのだが、立石のディフェンスにつめ寄られてのシュートでは苦しく、立石GKの井村に再三の好守を許した。北国は今シーズンの初戦だったが波に乗れず、リードされたままに終わった。

◇同（呉市体育館・広島）

▽女子

日本ビクター（1勝2敗）27（16―3、11―2）5 ムネカタ（2敗）

【ムネ】		得
清水	GK	0
岩瀬	GK	0
広田	FP	1
岡部	FP	0
吉田	FP	0
石田	FP	3
大河原	FP	0
米野	FP	0
落合	FP	0
佐藤	FP	1
水野	FP	0

【日ビ】		得
渡辺	GK	0
高橋	GK	0
染谷	FP	1
伊藤	FP	4
岩城	FP	2
村上	FP	1
志村	FP	14
中根	FP	0
高光	FP	5
門脇	FP	0
池田	FP	0

（審・中本、東）

27（10）PT（0）5

○…先週のシリーズで立石と日立に連敗、今シーズンの初勝利を目ざすビクターがムネカタと激突し、最後まで気合いのはいった攻防を展開した。若きエース志村を中心に速いパス攻撃で、スタートからムネカタを押しまくったビクターは、速攻とロングシュートを確実に決めて、ムネカタに反撃のチャンスを与えなかった。ムネカ

タは、わずかに速攻展開で反撃を試みるが、連続得点につなげることができず、チャンスをつかめないままに敗退した。とくにビクターのカットインにディフェンスの足がついてゆかず、ペナルティスローを9本も与えてしまい、自らを苦しくした。

ビクターの志村は、この試合で14得点（うちPT8）をあげる活躍だったが、この得点14は、昨シーズン立石の紀野が、東京重機戦であげた11得点を上回り、「個人・1試合最多得点」の新記録。

▽男子

大阪イーグルス（1勝2敗）22（9—10 13—10）20 日新製鋼（2敗）

	【日新】	得	【大イ】	得
GK	西川	0	本田	0
GK	三田	0	信貫	0
FP	泉	3	源野	3
FP	徳田	4	足羽	0
FP	大庭	3	大西	2
FP	吉見	5	飯田	0
FP	洞ケ瀬	1	早川	1
FP	脇若	4	福井	3
FP	日野	0	辻本	10
FP	森	0	三谷	3
FP	甲斐	0	勝本	0
FP	一瀬	0	千野	0

（審・中村 岡村）

22（0）PT（4）20

○…開始早々イーグルスは速い攻撃でペースをつかみ、一気に5—2とリードを奪った。日新はディフェンスの立て直しに躍気となっていたが、イーグルスの左腕エース辻本に早めにつめることで失点を食い止め始めた。ようやく前半なかばから日新の攻撃もつながりを見せる。スピーディなローリングオフェンスからチャンスをつかみ、25分ついに同点に追いつき前半終了寸前には10—9と逆転に成功した。

日新の1点リードで迎えた後半とたんにイーグルスが同点に追いつくと、以後はシーソーゲーム。両者ともスピーディな展開を応酬して、追いつ追われつの好試合となった。後半20分過ぎ、18—18の対スコア。ここからイーグルスがスパートをかける。辻本らで一気に連取、2点リードを奪うとそのままの差を保ったまま試合終了になだれこむ。10得点をあげたイーグルス・辻本の健闘が光る。

◇第2週第2日（6月21日・名古屋市体育館・愛知）

▽女子

大崎電気（1勝2敗）20（12—10 8—8）18 ブラザー工業（2勝1敗）

	【ブ工】	得	【大崎】	得
GK	尾比久	0	藤村	0
GK	中村	0	梅野	0
FP	杏原	4	西	3
FP	竹内	2	陽田	5
FP	則武	0	宮嶋	3
FP	塩谷	1	石井	7
FP	増永	0	渡部	1
FP	大田	5	徳渕	1
FP	植田	5	山沢	0
FP	山村	0	嘉本	0
FP	尾崎	1	小笠原	0
FP	松下	0		

（審・新井 幸田）

20（1）PT（5）18

○…前週ジャスコ、立石電機に連敗したとはいえ、最後まで接戦に持ち込んで好ゲームを展開していた大崎は、このブラザーとの一戦に激しい闘志を燃えたたせ、主砲・西を徹底的にマークされたものの、対角を打つ石井、サイド陽田、ポスト徳渕らが持ち味をフルに発揮してGK藤村の再三にわたる好守もあってブラザーの連勝をストップ、上位進出に望みをつないだ。

前期を4戦全勝で折り返して念願の初優勝に向かって足がためをしたいブラザーだったが、スタートから大崎の先行を許して苦しい試合運び。大崎・西、ブラザー・杏原の両ロングアタッカーが、それぞれマークされて沈黙していたが、石井、陽田の活躍が目立つ大崎に対し、ブラザーの増永の突進プレーが光るのみで得意の速攻のつながりもいまひとつ、逆に大崎のロングパス速攻を許すなど、終始後手にまわっていた。

ようやく前半の終わり近くになって、大崎・石井の2分間退場のチャンスに則武、増永のカットインで反撃に転じたブラザーは、5点まで開いていた点差を2点につめて前半を終了、後半の反撃に期待をつないだ。しかし、好調の大崎は、ブラザーに得点を許してもすぐ奪い返すというパターンでつねにリードをキープ。終盤に入って必死に粘るブラザーを、それまで鳴りをひそめていたエース西のカットインからの連続ゴールで突き放し、会心の勝利を収めた。

得点の半分近くを西が叩き出していた大崎だが、その西がわずか2得点に終わりながら石井らの働きで20得点を記録した大崎、それだけチームの好調さを物語る数字といえよう。

▽男子

大同特殊鋼（2勝1敗）25（12—7 13—6）13 日新製鋼（3敗）

	【日新】	得	【大同】	得
GK	西川	0	柳川清	0
GK	三田	0	上村	0
FP	泉	1	中井	0
FP	徳田	3	花輪	2
FP	大庭	3	柳川実	4
FP	吉見	5	大原	7
FP	洞ケ瀬	0	中本	4
FP	脇若	1	浦田	1
FP	日野	0	蒲生	6
FP	森	0	更谷	0
FP	甲斐	0	小野	1
FP	高木	0	田中	0

（審・森 川島）

26（6）PT（2）13

○…前日、本田技研に思わぬ敗戦を喫した大同特殊鋼は、その悪夢をふりはらおうと闘志をむき出しにしたが、それが逆に気負いとなって大同らしいプレーの安定感が影をひそめ、もたつきばかりが目立つ前半だった。しかし、後半に入って中井、花輪のベテランを投入して守りを固めた大同は、ようやく攻撃のリズムが生まれ始め大原、柳川実らの速攻を連発させてペースをつかんだ。

前半から後半の出だしまでは、吉見、徳田らで必死に食い下がっていた日新だが、要所で得たPTを大同GK柳川清に次々と阻まれ追撃チャンスをフイにして大同をムードに乗せてしまった。余裕を取り戻した大同は、ようしゃのない攻撃を日新ゴールに浴びせかけ後半10分14—10から10分後には21—10として試合の大勢を決めた。

なお前日、全くの不調に終わった蒲生は、この試合も連続して3本のPTを日新GK三田に阻まれたが、その後は落ちついて4連続PTを決め、終盤には豪快なフリースローも打ち込んで次週の湧永戦に向けて明るい見通しをつけた。

◇第2週第2日（6月21日・都城市体育センター・宮崎）

▽女子

ジャスコ（2勝）36（18—6 18—6）12 北国銀行（2敗）

	【北国】	得	【ジャ】	得
GK	酒谷	0	山本一	0
GK	辻	0	矢部	0
FP	西出	0	辻本	5
FP	八木	6	松下	2
FP	木内	0	山本二	10
FP	中田	1	横山	8
FP	竹	1	松岡	1
FP	山崎	0	若田	3
FP	橋本	0	今里	0
FP	木戸	2	若林	0
FP	本田	0	寺沢	6
FP	庄田	2	鷲野	1

（審・関谷 堀之内）

36（4）PT（3）12

○…両チーム共に立ち上がりからパスミスが多くてシュートチャンスを作れずラリーを繰り返していたが、前半12分、ジャスコGK矢部からサイド走る横山に矢のような速攻パスが通ってからは、ジャスコがセキを切ったように速攻を繰り出しペースをつかんだ。さらにセット攻撃でもポストプレーに迫力を見せ、一方的な試合展開を作り出した。北国も左腕・八木の速い動きでなんとかジャスコのディフェンスを切り崩そうとするのだが、開始早々ロングシュータ

ー役の木戸がヒザの故障でベンチに退いたのが痛く、空回りの状態になってしまった。

▽男子

湧水薬品（3勝）37（17─8 20─9）17 三陽商会（1分2敗）

得	【湧永】		【三陽】	得
0	福井	GK	大山	0
0	井藤	GK	田村	0
2	津川	FP	関	6
7	生駒	FP	金子	1
4	穂積	FP	坪子	0
2	藤本	FP	稲木	0
1	志賀	FP	山口	7
0	戸田	FP	石原	1
9	松本	FP	鵜沢	1
2	山本	FP	斎藤	1
0	溝部	FP		
10	池ノ上	FP		
37（3）		PT		（3）17

（審・小松 野中）

○…三陽が1点とると湧永が2点とるといったパターンで点差が開き、湧永の快勝。前半は両チームのGKが美守でわたり合って観客を喜ばせたが、力とスピードに勝る湧永が、ディフェンスで粘ろうとする三陽を除々にかわし、セットプレーでも松本、戸田、山本らが下をかきまわしては津川、池ノ上のロングシュートへつなげ、リードを広げた。後半に入っても湧永の勢いは衰えず、エース関のシュートを中心に食い下がる三陽を突き放した。

◇第3週第1日（6月27日・京都府立体育館）

▽女子

大崎電気（2勝2敗）17（8─5 9─6）11 ムネカタ（3敗）

得	【大崎】		【ムネ】	得
0	藤村	GK	清水	0
0	梅野	GK	岩瀬	0
6	西	FP	広田	4
2	陽田	FP	岡部	2
3	宮嶋	FP	吉田	2
3	石井	FP	石田	1
1	渡部	FP	大河原	0
2	徳渕	FP	米野	0
0	山沢	FP	落合	2
0	嘉本	FP	佐藤	0
0	小笠原	FP	水野	0
			辺見	0
17（5）		PT		（1）11

（審・小西 吉田）

○…前半ムネカタの健闘にあって苦戦を強いられた大崎電気だったが、後半の速攻でなんとか突き放した。「当たって砕けろ」のムネカタと、「勝って当然、むしろ得失点差をかせぎたい」大崎電気との立ち上がりは、その精神的な差がプレーにあらわれた。大崎は気持ちばかりが先走ってしまい、ボールが手につかなかった。ムネカタは、そのスキをついて落合の速攻、岡部のサイド、再び落合の速攻で3─1とリードを奪った。大崎は、ゆっくりと攻めてくるムネカタのペースにはまり焦らされては速攻の展開ミスで〝ふっきれない〟ゲーム。大崎が石井のミドル、西の逆速攻などで追いついたのは前半の15分になってからだった。だがその間、せっかくのPTもムネカタのPT用のリリーフGK清水に2本連続してナイスキープされるなど、本来の調子とはほど遠いものだった。

後半に入ってからは、大崎がようやく速攻ペースをつかみ、西のロングともからんでムネカタを突き放したが、ムネカタ・広田のタイミングを計算したミドルに再三ゴールを割られるなど、ディフェンスは最後まで合わずじまいだった。

▽男子

三陽商会（1勝1分2敗）23（14─9 9─11）20 日新製鋼（4敗）

得	【三陽】		【日新】	得
0	大山	GK	西川	0
0	田村	GK	三田	0
7	関	FP	泉	3
3	金子	FP	徳田	4
0	坪子	FP	大庭	2
3	稲木	FP	吉見	4
5	山口	FP	洞ケ瀬	1
2	石原	FP	脇若	5
3	鵜沢	FP	日野	0
0	斎藤	FP	森	0
			一瀬	0
			高木	1
23（1）		PT		（3）20

（審・幸田 光島）

○…日新製鋼は後半の初めに4点連取して13─14と1点差までつめ寄ったのだが、そこまで。落ち着きを取り戻した三陽の逃げ切りを許してしまった。2年目に入った山口のパッサー役がチームにマッチしてきた三陽が今リーグ好調子を続けているが、この試合では新人GK・大山（国士館大出）の起用がズバリ。要所で好キープを連発して三陽を勢いに乗せる役を果たした。昨シーズン、三陽はリーグ最下位（6位）、日新は4位だったが、それが全く逆転してしまったような印象を受けた三陽の試合ぶりだった。

関のジャンプ、山口のカットインなどで波に乗る三陽が、14─9とした前半。日新は後半の立ち上がりで意地を見せる。洞ケ瀬の速攻、脇若のカットイン、吉見のポスト回り込みで一気に4点連取、1点差に追いついた。日新のチャンスはまさにこの場面、続けてPTを得て同点に、というケースだったのだが、このPTを三陽GK大山に見事にさばかれて反撃の芽をつまれてしまう。とたんに三陽の3点連取が出るのだから、日新にとっては悔みきれない一投だった。これで息を吹き返した三陽は、その後もピンチになると決まって飛び出したGK大山の好守で主導権を守り切って逃げ切った。

▽男子

大同特殊鋼（3勝1敗）28（13─12 15─10）22 大阪イーグルス（1勝3敗）

得	【大同】		【大イ】	得
0	柳川清	GK	木田	0
0	上村	GK	信貫	0
1	花輪	FP	高橋	2
4	柳川実	FP	源野	2
5	大原	FP	足羽	0
2	中本	FP	大西	3
3	浦田	FP	飯田	0
6	蒲生	FP	早川	0
0	筧谷	FP	福井	1
6	小野	FP	辻本	11
1	田中	FP	三谷	2
0	田口	FP	千野	1
28（3）		PT		（1）22

（審・福井 藤本）

○…大同がなんとか突き放したものの、イーグルスに苦戦、大同らしくない試合だった。イーグルスは、本田技研が大同を破った時と同じく蒲生にマンツーを当てるシフト。このディフェンスを攻めあぐむ大同に対して、イーグルスは先制攻撃をしかけて突っ走る構え。辻本のロング、高橋の速攻、

さらに辻本のロング、高橋のサイドシュートと続けたイーグルスは一気に4—0、絶好の立ち上がりを示した。大同の1点目は5分を過ぎてから、フリースローで密着マークがはずれた一瞬の虚をついた蒲生のジャンプで取ったのがやっと。その後も大同はイーグルスの左腕エース辻本が空中を流れて打つジャンプシュートを守れず追いつけない。マンツーされた蒲生をポストに入れて小野と中木が大砲役となる攻撃陣、確かに小野は小柄ながらロングシュートをビシビシ決めていくのだが、自分のことで手いっぱいで、柳川のポストや大原のサイド陣へのアシストはもうひとつ、苦しいままの前半を強いられた。

その大同が、イーグルスにやっと追いついたのは、前半終了間ぎわだった。9—12で迎えた前半残り5分から大同は柳川のミドルジャンプ、蒲生のつなぎの速攻、柳川の速攻、大原の速攻と一気に4点連取、13—12と逆転、ようやく反撃ののろしをあげた。その反撃ムードを大同は後半に持ち込んだ。

後半に入るや、大同は柳川がリバウンドを拾っての速攻、フリースローから蒲生の打ちおろし、大原のサイドシュートでスパート、前半のスタートとは逆に16—12と4点差をつけてスタートを切った。これでようやく大同らしさを取り戻した大同は、後半10分から浦田のサイドでの浮かしシュートや速攻、蒲生のロングなどで5連続ゴールを見せて主導権を握り、終盤に入って福井や辻本のミドルシュートで粘るイーグルスを突き放した。大同は勝ったものの本田戦同様、蒲生にマンツーを食った時の攻撃パターンに課題を残した。ポストに入った蒲生をもっとうまく活用することを考えねばなるまい。

◇同（熊本市体育館）

▽女子

立石電機（4勝） 17（8—5、9—4）9 日立栃木（1勝2敗）

【日立】		得	【立石】		得
GK	寺沢	0	GK	井村	0
GK	斎藤	0	GK	荒木	0
FP	水上	4	FP	姫野	3
FP	大高	3	FP	桑原	2
FP	大輪	0	FP	木下	5
FP	栗原	0	FP	紀野	0
FP	小根沢	0	FP	藪田	4
FP	西山	0	FP	羽立	1
FP	小池	0	FP	福永	1
FP	手内	1	FP	喜久山	0
FP	前田	1	FP	亀園	0
FP	上屋	0	FP	岩村	1

（審・福田　松尾）

17（2）PT（1）9

○…地元・立石電機が全勝で突っ走っていることもあって、梅雨前線停滞による大雨洪水注意報をよそに五千人の観衆を集め、地元テレビ・熊本放送の実況中継用のテレビライトの中、熱気のみなぎる試合となった。

二百人を越す大応援団の「フレフレ立石」の声援に固くなったのか、立石の動きは立ち上がりが悪く、立石ファンをハラハラさせた。

前半3分から日立は大高、水上のロングが決まってリード、10分過ぎまでペースを奪った。立石は開き直ってようやく固さが取れ、18分から立石・木下の逆転シュートをキッカケに3点連取、一気に展開をひっくり返した。後半に入っても、立石は木下や姫野のスカイプレーやカットインプレーなどで勝り、10分までに5連続ゴールを上げ勝負を決めた。

ゴールキーパーの立石・井村、日立・斉藤がお互いに好守を応酬して試合をひきしめた。

◇同（四日市体育館・三重）

▽女子

ジャスコ（3勝） 24（12—7、12—8）15 日本ビクター（1勝3敗）

【日ビ】		得	【ジャ】		得
GK	渡辺	0	GK	山本一	0
GK	高橋	0	GK	矢部	0
FP	染谷	0	FP	辻本	4
FP	伊藤	2	FP	松下	7
FP	岩城	1	FP	宮崎	1
FP	村上	0	FP	山本二	5
FP	志村	6	FP	横山	0
FP	中根	1	FP	松岡	0
FP	高光	4	FP	若田	0
FP	門脇	0	FP	今里	0
FP	池田	1	FP	若林	0
			FP	寺沢	7

（審・吉田　安芸）

24（3）PT（5）15

○…前半3分、松下のシュートで先制したジャスコだが、いつになく凡ミスが多く、そのミスをビクターがうまく逆速攻に結びつけて26分まで7—8と大接戦、よもやと思わせた。だが、ここでジャスコも奮起、新人・寺沢のロングを口火に4点連取、ビクターの攻勢をはねかえして前半を12—7とした。

後半に入っても、ジャスコのペース。いきなり4点連取して16—7と試合を決定づけた。ビクターは後半に入って攻撃に鋭さを欠き、下がり気味のディフェンスを攻めあぐねてズルズルと敗退した。ジャスコでは7得点をあげた新人・寺沢のプレーが注目された。

▽男子

湧永薬品（4勝） 21（12—9、9—9）18 本田技研鈴鹿（2勝1分1敗）

【本田】		得	【湧永】		得
GK	大畑	0	GK	福井	0
GK	細野	0	GK	井藤	0
FP	長野	3	FP	津川	3
FP	佐藤	2	FP	生駒	1
FP	宮井	1	FP	穂積	4
FP	豊岡	2	FP	藤本	0
FP	佐々木	1	FP	志賀	1
FP	矢野	1	FP	戸田	2
FP	高橋	3	FP	松本	2
FP	坂元	4	FP	山本	4
FP	三本松	1	FP	溝部	0
FP	栗屋	0	FP	池ノ上	4

（審・森　川島）

21（2）PT（2）18

○…前半立ち上がり1分、湧永は穂積のミドルで先制、さらに穂積を中心に両サイドの山本、松本がよく走り着実に加点。一方、本田も湧永の固いディフェンスを横にゆさぶりよく攻めるものの、前半の大事なところで佐々木が退場を命じられたのが痛く、この間に湧永に2点連取され、前半を9—12と3点差をつけられてしまった。

後半、湧永は山本で先行する。本田も負けじと豊岡、高橋で3点連取、1点差につめよった。しかし、ここで本田はまたも佐々木が


adidas is sports sports is adidas
株式会社デサント
いくつもの勝利をかさねて、
神話が生まれた。

退場、凡ミスも出て湧永にリードを広げられた。このまま湧永ペースかと思われたが、ここで本田はGK大畑の好守で湧永の追加点を阻む一方じりじりと攻め寄り、19分にはついに同点。しかし、このチャンスに本田は23分、喜井が逆転PTを失敗してしまう。

この大きなピンチを乗り切った湧永に勝機が傾く。ミドルシュートを連発した湧永が、GK大畑のタイミングを崩し加点すると、本田はPT失敗以後気落ちしたようにシュートがなく、ペースダウンして湧永の逃げ切りを許した。

◇第3週第2日（6月28日・神戸王子スポーツセンター・兵庫）

▽女子

ブラザー工業（3勝1敗）32（18—6、14—6）12 北国銀行（3敗）

得	【ブエ】		【北国】	得
0	屋比久	GK	酒谷	0
0	大藪	GK	辻	0
0	杏原	FP	西出	2
3	竹内	FP	八木	4
3	則武	FP	木内	0
0	塩谷	FP	中田	1
5	増永	FP	竹	2
7	太田	FP	山崎	0
10	植田	FP	橋本	0
4	尾崎	FP	木戸	1
0	松下	FP	本田	2
0	小野島	FP	庄田	0

（審・北岡、望月）

32（7）PT（3）12

○…スタートは両チームの足がよく動き互角の展開かと思われたが、徐々に北国ディフェンスがブラザーの動きについていけなくなり、ブラザーの速攻が爆発、ブラザーの一方的な勝利になってしまった。

前半2分過ぎ、八木のロングで北国が先制、ブラザーも負けじと増永がサイドで決めて1—1。だがディフェンスではブラザーが上。ゆっくりしたセット攻撃で主導権を握ろうとする北国に対し、前でつぶしては素早く下がるブラザーのディフェンスがジックリと守る。このディフェンスに対して北国は「攻めあぐむ」格好で、中途半端な態勢からシュートに結びつける状態が続いた。ブラザーはこの機を逃がさず、5分過ぎあたりから北国の無理なシュートを速攻展開につなぎ、一気にゲームの流れをつかんだ。その後もブラザーは着実に点を重ね、セット攻撃でも足の動きの鈍くなってきた北国に対して、再三のカットインとポスト攻撃でペナルティーを誘った。このペナルティーを新人の太田が慎重に決めて北国に追撃のチャンスを与えなかった。

北国は、前半終了間ぎわ八木、竹でペナルティーを誘って2点連取し後半に望みをつないだが、後半に入ってもおとろえないブラザーのスピーディな攻撃を追うのが精一杯、植田、太田の速攻などでたたみかけるブラザーに、成すすべなかった。ブラザーでは、落ちついてシュートをさばき続けたGK屋比久、10得点をあげた植田の活躍が光った。

▽男子

本田技研（3勝1分1敗）20（8—7、12—12）19 日新製鋼（5敗）

得	【本田】		【日新】	得
0	細野	GK	西川	0
0	大畑	GK	三田	0
0	長野	FP	泉	1
2	佐藤	FP	徳田	3
0	喜井	FP	大庭	2
2	豊岡	FP	吉見	6
6	佐々木	FP	洞ケ瀬	1
1	矢野	FP	脇若	3
5	高橋	FP	日野	0
0	谷元	FP	森	3
4	坂元	FP	一瀬	0
0	三本松	FP	高木	0

（審・新井、幸田）

20（4）PT（6）19

○…大同を破って波に乗っている本田に対して、日新が連敗を脱せんとする意地を見せて食い下がったが、あと一歩のところで涙を飲んだ。

スタート直後、本田がPTを誘ううまいプレーを見せ、これを佐々木が決めて先取点とすると、日新もポストでPTを得て同点とし、さらに速攻で2点連取、3—1とリードを奪った。その後も一進一退のゲームが続き、本田GK大畑、日新GK西川の好守も折りまぜ、好ゲームとなった。本田が20分過ぎ坂本のポストでのとびこみで6—6の同点とすると、日新も大庭のカットインで返して7—6、再度坂元がサイド上がりからのミドルを決めて同点と全くのシーソーゲーム。前半終了間ぎわ、本田は豊岡が速攻から持ちこんでやっと逆転、8—7とするとこれが前半のスコアとなった。

後半に入っても互角の戦いが続く。坂本、豊岡のしぶといポストで本田がゴールを奪えば、日新も大庭が上から決める。連敗脱出を図る日新にこれまで以上の粘りが見える。本田は10分過ぎ、監督兼任の佐藤が登場、若手を引きしめる。この佐藤が、要所でアンダーハンドやカットインを決めて虎の子の1点リードを守ろうと必死。しかし日新も食い下がる。14分、吉見がPTを決めてついに逆転。ところが、ここで日新にとっては痛恨の退場者（洞ケ瀬）が出る。ズラシ攻撃を得意とする本田は、この日新が5人の間に佐藤がうまくパスをさばいて再逆転、再び1点リードを手にする。粘る日新は洞ケ瀬が復帰しての23分に一度は同点に追いつくのだが、佐々木のロングなどで18—20と2点差とされ、終了直前に得たPTで19—20としたものの、ついに追いつけなかった。

◇同（大阪市中央体育館）

大阪イーグルス（2勝3敗）26（14—11、12—12）23 三陽商会（1勝1分3敗）

得	【大イ】		【三陽】	得
0	本田	GK	大山	0
0	信貫	GK	田村	0
3	高橋	FP	関	7
5	源野	FP	金子	5
0	足羽	FP	坪子	1
4	大西	FP	稲木	0
1	早川	FP	石原	1
3	福井	FP	鵜沢	3
7	辻本	FP	斎藤	6
2	三谷	FP		
1	勝木	FP		
0	成願	FP		

（審・福井、藤本）

26（1）PT（2）23

○…イーグルスにとっても三陽商会にとっても順位争いをする上で大事な試合だったが、三陽は前日の日新戦で左足を痛めた山口がコートに立てず苦しい展開を強いられ、結局イーグルスのスピーディな展開を守れなかった。

三陽は、負傷欠場の山口の代役にジュニアナショナル所属の斉藤を起用、立ち上がりに大砲の関に続いてこの斉藤が中央から豪快にロングを決めていいムードでスタートした。ところが、ここからイーグルスの速い展開を読めず5点の失点を続けてしまったのが最後まで響く。それほどイーグルスの0—2からのスパートはみごとだった。まず小柄な大西が虚をついた回りこみミドルで2—1、速攻からセット攻撃への変りぎわに辻本がジャンプシュートをビシリと決めて同点、速攻で大西がサイドを攻めて逆転、さらに早川のポスト、高橋のサイドからのループシュートで一気に5—2としてしまう。

三陽にとっては、この3点差が最後まで追いつけないハンデとなるのだから大きかった。三陽は、その後も関、金子などで多彩な攻めを見せ、若い斎藤も予想以上に働くのだが、さすがにイーグルスはベテランが多い。攻撃にスタミナを使う斉藤のディフェンスが甘いとみるや、集中的に斉藤のポジションを攻めた。さらに三陽は帰陣が一歩遅く、せっかくの攻撃で

の好展開も失点の押えがきかないために生かしきれなかった。イーグルスは、ベテランが次々と交代してコートに現われて若手のディフェンスでのスタミナを助け、最後まで速い展開を失わなかったのが好結果につながった。若手の左右アタッカー・辻本、源野で合わせて12得点をたたき出しているのを見ても、イーグルスのペースで試合が進んだことを物語っている。

▽男子

大同特殊鋼（4勝1敗）18（10―6 8―10）16 湧永薬品（4勝1敗）

【湧永】		得
GK	福井	0
	井藤	0
FP	津川	5
	生駒	1
	穂積	0
	藤本	0
	志賀	0
	戸田	0
	松本	1
	山本	3
	津部	0
	池ノ上	6
	PT	（3）16

【大同】		得
GK	柳川清	0
	上村	0
FP	花輪	2
	柳川実	2
	大原	2
	中本	0
	浦田	1
	蒲生	8
	更谷	0
	小野	3
	田中	0
	田口	0
	PT	18（4）

（審・井上 牧村）

◯…エース蒲生が「絶不調」とまでささやかれ、前日のイーグルス戦でも苦戦を強いられた大同がこの二強対決では見違えるほどの気迫で終始湧永を押しまくり完勝。蒲生の不調説など吹き飛ぶ快勝ぶりだった。

すでに本田に一敗を喫している大同は、この湧永戦を落とすと優勝はほぼ遠のくだけに〝背水の陣〟。ディフェンスでなみなみならぬ気迫を見せた。この気迫に押された湧永は、受け身に立ってしまい、終始元気のないまま大同ペースに引きずりこまれてしまった。大同はディフェンスでボールを持ったプレーヤーに素早く接近湧永の動きを早めにつぶす作戦。

とくに、このところ調子をあげている湧永の若手左腕・池ノ上へのチェックは厳しい。先制点は湧永の山本だった。回りこんでのミドルジャンプで1―0。この間、大同はフリースローから蒲生が3本続けて空打ち。3本とも湧永GK福井にさばかれたものの、「不調」といわれる蒲生でもまだ上から打っていくぞ――の気迫が湧永のディフェンスを精神的に圧迫する効果があったのは確か。しかも、蒲生がこの3本の空打ちで復調のキッカケとなるべき積極性を見せたことが、大同のチームメイトに与えた影響も大きかった。

大同の積極的なディフェンスを攻めあぐむ湧永に対して大同は一気にたたみかける。サイドの浦田とポストの柳川がうまいコンビでクロス、左サイドを攻める。さらに小野のロング2本などで一気に5点連取、主導権を握った。4、5点のリードを奪った時の大同は試合のペースを作るのがうまい。ハンデを負って必要以上に湧永が気負い立つのをはぐらかすようにゆっくりとセットで攻める。これにじれた湧永は、ようやくマイボールとしては速攻をミス、セットで津川のカットインや池ノ上の二段ジャンプでついていくのがやっと。

得点パターンも単発でからみ合いのない状態に分断させられてしまった。

大同の10―6で迎えた後半も、大同は失点はあってもセットでその点をゆっくり取り戻す必勝パターン。

しかも、リードしての余裕からかエース蒲生がよく動いてはロングやカットインを決め、フリースローから花輪や柳川のポストをうまく使っての攻撃を見せるなど前日までの不調ぶりが嘘のよう。

欲しいところで確実に点を重ねて差を縮めさせなかった。

湧永は、後半に入っても速攻をミスし続け、セットでも単発的なシュートを上から打つことになってしまった。それだけ松本らのポストの動きを封じられていたわけだ。

ようやく湧永らしい足を使ってディフェンスをズラせるようになったのは終盤に入ってからマークされていた池ノ上が2点連取すると、津川が速攻で続き3点差としたが残りは3分を切っており時すでに遅し、終了間ぎわに得たPTも焼け石に水だった。

この試合、大同の蒲生は8得点をあげ復調のきざしを見せた。

◇第回6日本リーグ2部前期戦績◇

◇第1週第1日（6月13日・駒沢屋内球技場・東京）

▽女子

東京重機（1勝）16（6―9 10―4）13 大和銀行（1敗）

◇同（笠間市民体育館・茨城）

▽男子

三景（1分）21（9―11 12―10）21 日鉄建材（1分）

中村荷役（1勝）34（17―10 17―14）24 トヨタ車体（1敗）

大崎電気（1勝）27（14―7 13―8）15 セントラル自動車（1敗）

大阪ガス（1勝）31（12―6 19―11）17 自衛隊勝田（1敗）

◇第1週第2日（6月14日・笠間市民体育館・茨城）

▽男子

大崎電気（2勝）33（14―8 19―13）21 大阪ガス（1勝1敗）



2部は大崎電気が全勝で折り返す。シューターは大崎の佐伯

三景（1勝1分）21（10―9 11―9）18 中村荷役（1勝1敗）

トヨタ車体（1勝1敗）36（18―14 18―7）21 日鉄建材（1分1敗）

自衛隊勝田（1勝1敗）25（10―9 15―9）18 セントラル自動車（2敗）

◇前期最終週第1日（6月27日・ブラザー工業体育館）

▽男子

大崎電気（3勝）33（14―8 19―7）15 日鉄建材（1分2敗）

三景（2勝1分）30（16―6 14―9）15 セントラル自動車（3敗）

トヨタ車体（2勝1敗）20（10―7 10―6）13 大阪ガス（1勝2敗）

中村荷役（2勝1敗）37（16―3 21―8）11 自衛隊勝田（1勝2敗）

◇前期最終週第2日（6月28日・ブラザー工業体育館）

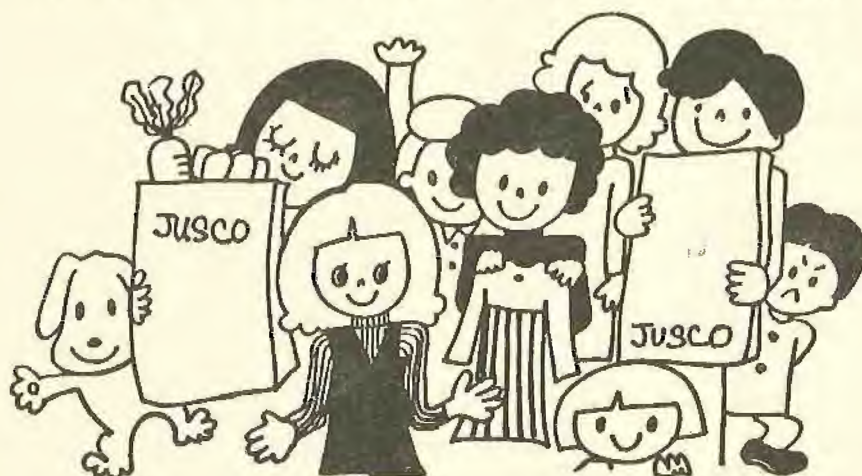
▽男子

大崎電気（4勝）25（15―8 10―13）21 中村荷役（2勝2敗）

トヨタ車体（3勝1敗）33（13―7 20―13）20 自衛隊勝田（1勝3敗）

三景（3勝1分）24（13―6 11―13）19 大阪ガス（1勝3敗）

日鉄建材（1勝1分2敗）19（11―5 8―11）16 セントラル自動車（4敗）


JUSCO
JUSCO



○第31回（女子第13回）全日本学生選抜東西対抗

東軍 史上初の4連勝（男子）

女子、東軍が逆転で6連勝

○第31回（女子第13回）全日本学生選抜東西対抗

第31回（女子第13回）全日本学生選抜東西対抗戦は、6月6日大阪・東淀川体育館で男女ジュニア戦に引きつづいて行われた。

男子は、激しい射ち合いとなったが、前半のリードを後半になっても拡げた東軍が楽なペースで快勝、4年連続優勝を決めた。7人制になってからの4連勝は初。通算成績は東軍の20戦11敗。

女子は、西軍が先行したが後半東軍が一気に逆転して6連勝、通算成績を10勝1分2敗と引き放した。

この大会が大阪で行われたのは36年以来20年ぶり、7人制は初めてのことだった。

▽男子

東軍 28（16－6／12－15）21 西軍

○…両軍ともに大型選手を集め東軍は世界学生の得点王・西山をエースに、西軍は左腕・玉村を軸にして攻め合った。

前半、西軍が先手をとる場面もあったが、東軍は西山のロング、尾上のフェイント、廻りこみでリズムをつかみ、守ってもGK矢内がノーマークを連続クリアするなど主導権を握り、一気に点差をつけた。

両軍も、GK山下、嚢輪の好技もあって善戦したが、肝心なところでミスが出て、波に乗れなかった。

後半も東軍は攻め手をゆるめず中川らの得点でリードを拡げた。西軍は土山のポスト、島村のサイドで追いかけたが、大勢をくつがえすまでにはいかず、東軍に40～43年以来の4連勝を許した。

両軍のなかに、ナショナル、ジュニアナショナル、全日本学生の代表が数多くおり、オールスターゲームらしい個人技の見せ場もあって、点差の割に面白い試合であった。

得	【東軍】		【西軍】	得
0	矢内(国士舘)	GK	山下(京産大)	0
0	佐藤(筑波)	GK	嚢輪(名城)	0
7	西山(筑波)	FP	宮本(近大)	1
5	尾上(中央)	FP	山本(大体大)	2
1	田口(中央)	FP	土山(大体大)	5
5	藤井(中央)	FP	玉村(大体大)	4
2	寺山(日体)	FP	菅沼(大体大)	2
3	中川(中央)	FP	蟹江(同志社)	2
2	黒島(日体)	FP	柏原(福岡大)	1
1	三浦(日体)	FP	島村(福岡大)	3
2	中島(筑波)	FP	立木(名城)	0
0	宮原(函館大)	FP	関東(山口大)	1
28	（0）		（5）	21

（審・大原・新井）

◇このほかの出場選手【東】▽FP＝塚田(中央)、山本（金沢工大）＝ともに得0

▽女子

東軍 14（4－5／10－5）10 西軍

○…両軍とも混成チームの弱点をみせ、立ち上りはミスが目立ったが、西軍は6分塚田で先手をとったあと小刻みに加点、15分5－2とリードした。

東軍は、前半残り10分あたりから、ようやく各選手の調子がととのいはじめ、後半5分6－6と振り出しへ戻した。

ここで西軍はPTを得て、再び先行の好機をつかむが失敗、このプレーで流れは、完全に東軍へ傾き、8分以降6分間に4点をたたみかけ、一気に東軍有利となった。

西軍もPTなどで反撃したが、ここぞという時にスタミナ切れ、連続ゴールができなかったため、東軍に逃げこまれた。

得	【東軍】		【西軍】	得
0	上越(東女体)	GK	水谷(武庫川)	0
0	高倉(日体)	GK	竹山(大体大)	0
3	石井(日体)	FP	玉置(武庫川)	1
2	加藤(日体)	FP	塚田(大体大)	2
4	鈴木陽(東学大)	FP	倉光(武庫川)	0
2	鈴木智(東女体)	FP	伊勢(大体大)	5
1	小林(筑波)	FP	中村(武庫川)	0
0	大森(日女体)	FP	松田(福教大)	1
0	後藤(日体)	FP	富田(武庫川)	1
0	原田(日体)	FP	藤崎(中京女)	0
2	吉田(日体)	FP	長越(中京)	0
0	天野(日体)	FP	牛尾(山口大)	0
14	（4）	PT	（3）	10

（審・吉田敏・望月）

◇このほかの出場選手【西】▽FP＝曽我部（福岡教大）＝得0

◇

▽男子ジュニア

東軍ジュニア 26（13－14／13－11）25 西軍ジュニア

通算成績は東軍の3勝1敗。

得	【東軍J】		【西軍J】	得
0	森田(日体)	GK	小野(大体大)	0
0	石井(日体)	GK	水口(久工大)	0
1	安藤(中央)	FP	桜田(名城)	0
8	実方(中央)	FP	荷川取(中工大)	11
4	新垣(国士舘)	FP	高市(中工大)	1
3	平林(早稲田)	FP	宮下(同志社)	6
0	斉藤(東北大)	FP	奥畑(同志社)	2
0	田中(日体大)	FP	西村(大体大)	4
9	田口(日大)	FP	鳥谷(関学)	1
0	池田(国士舘)	FP	川久保(久工大)	0
0	森林(北大)	FP	百留(広島大)	0
0	北岡(金沢大)	FP	補(関大)	0
26	（2）	PT	（4）	25

（審・小西・倉本）

◇このほかの出場者【東J】▽FP＝杉森(筑波)＝得1、小林（金沢工大）、内藤（日大）＝ともに得0

▽女子ジュニア

西軍ジュニア 17（7－4／10－9）13 東軍ジュニア

得	【西軍J】		【東軍J】	得
0	畑添(武庫川)	GK	久保(筑波)	0
0	山本(中京女)	GK	小野(日体)	0
6	大久保(中京女)	FP	山口(筑波)	8
3	杉野(中京)	FP	河原(筑波)	3
2	神並(武庫川)	FP	二村(東女体)	0
1	望月(大体大)	FP	安藤(日女体)	0
2	正本(成蹊短)	FP	金井(日女体)	2
3	富田(中京)	FP	塩畑(日体)	0
0	白石(福教大)	FP	宇賀神(日体)	0
0	浮田(岡山短)	FP	石原(日体)	0
0	池上(大体大)	FP	田島(東女体)	0
0	西田(武庫川)	FP	宮脇(東女体)	0
17	（4）	PT	（5）	13

（審・丸谷・奥田）

◇このほかの出場者【西J】▽FP＝森山（大体大）＝得0

通算成績は1勝1分1敗。

■第3回世界ジュニア選手権アジア予選■

男子は代表権獲得!!
女子は中国に敗れる!!

第3回世界ジュニア選手権のアジア地域予選が、4月から6月にかけて各地で行われ、日本は男子が代表権を獲得、女子は、本誌146号速報のとおり、中国に連敗して〝世界〟への道を閉ざされた。

女子の決勝・中国×韓国の2試合は、6月東京で行われ1勝1敗、2試合合計得失点差の争いから中国1位、韓国2位となった。

女子は、当初、アジアからの代表は1カ国と伝えられていたが、ヨーロッパあるいはアメリカ大陸勢に棄権があった模様で、アジアに二つの切符が渡され、韓国も出場権を得た。

本大会は、男子が今冬12月5日から13日までポルトガルで、女子が今秋10月17日から25日までカナダで、それぞれ行われる。

■男子■

1回戦の第1カード・日本×台湾の2試合は、5月12、13日東京駒沢屋内球技場で行われた。

▽第1戦

台湾 23（9−12, 14−8）20 日本

	【日本】	得	【台湾（身長）】	得
GK	矢内	0	王永泰（181）	0
GK	嚢輪	0	葉雅正（176）	0
FP	寺山	1	卜元生（173）	0
FP	中川	1	林瑞徳（181）	8
FP	立木	3	顔厚憲（177）	0
FP	小山	3	徐武男（185）	1
FP	松岡	1	頼明仁（181）	1
FP	玉村	9	紀昭印（186）	0
FP	中島	2	鄭高興（181）	0
FP	山口	0	葉正雄（177）	8
FP	田口勝	0	楊旺銘（172）	1
FP	荷川取	0	曽増球（194）	4
PT		（5）20		23（8）

（審・李文植 高内勇）

▽第2戦

日本 31（17−10, 14−7）17 台湾

	【日本】	得	【台湾】	得
GK	矢内	0	王永泰	0
GK	嚢輪	0	葉雅正	0
FP	寺山	2	紀昭印	6
FP	中川	0	曽増球	1
FP	玉村	7	葉正雄	3
FP	山口	6	頼明仁	2
FP	田口陸	1	林瑞徳	3
FP	立木	7	鄭高興	0
FP	小山	0	楊旺銘	1
FP	荷川取	2	顔厚憲	1
FP	田口勝	3	徐武男	0
FP	中島	3	張倉栄	0
PT		31（6）		（3）17

（審・高内勇 李文植）

◇

1回戦の第2カード・サウジアラビア×クウェートの2試合は、5月第1週ホーム・アンド・アウェイで行われる予定だったが、クウェートが棄権、サウジアラビアの不戦勝となった。棄権の理由は明らかにされていない。

◇

決勝戦・日本×サウジアラビアの2試合は、6月2、3の両日、駒沢屋内球技場で行われる予定だったが、直前になって、サウジアラビアから「選手の大半が学年試験と重なるため、決勝の期日を8月以降に延期して欲しい」との連絡が日本協会へ届き、同国は来日しなかった。

日本協会は、「延期の提案は承諾できない」として、IHF（国際ハンドボール連盟）へ通達、IHF理事で、この試合のウィットネス・渡辺和美氏は、6月2日、試合開始予定時刻30分前に「日本の不戦勝」を宣言した。

〈予選を終えて〉

木野 実

今回の全日本ジュニアチームの編成は、昨年の夏にはすでに候補選手のリストアップを終え、大会に備えて強化合宿に入る予定であったが、予選があるかどうかハッキリする11日以降ということを待って結局今年1月中旬に第1回目の合宿を行った。

34名の候補選手中3分の2が学生で、その為試験期と重なって20名しか集まらず、又第2回目の2月中旬の合宿も全員集まらなかった。

すでに2回目の合宿からチームの組立てを考えていただけに若干の遅れをとったことは否めない。

20名の選手を限定してやっと3月下旬顔を揃えることができた。第1、第2回ともトレーニング不足の選手がいて筋肉痛、関節痛の選手が続出したが、第3回目からは自覚もでてきてスムースにトレーニングに入ることができた。

それでも基礎体力に劣る選手が多く、徹底して走ることを主体に練習してきた。

一方、4月中旬に台湾でアジア予選があるといった情報もあって攻防戦、紅白ゲームを行ってチームの組立てを計ってきた。

この合宿中、このチームにとって初の公式試合を横浜で韓国社会人選抜（ナショナルチーム）と対戦する機会をつくって頂き、意気込んでいったが大敗してしまった。

練習とゲームとのちがいをまざまざとみせつけられた思いだったチーム内での個々の力をみることも狙いであったわけだが、正直これ程の点差になるとは想像できなかった。

しかし、スタートしたジュニアチームが一試合でも多く、公式の場でプレーすることの機会があったことは、まして国際ゲームを経験することは、何ものにもかえられない、尊い、貴重な経験だった。

次の合宿中、選手の中から「もう一度韓国と対戦したい」という要望がでてくる様にまで、選手は自信をもちはじめたと同時に、悔しさを強くもっていることに私自身も心強く感じた。5月に日本での予選が本決まりになり、直前強化合宿に入ったわけですが、前回より数段進歩してきた。それは自らがやらなくてはといった自覚がでてきたこと、技術的には、口すっぱくいってきた基本プレー、特にストップ・ターンがきちんとで

きる、パス、キャッチができる、この2点に集中してやってきたことがプレーの上達以上に意識改革ができつつあることの方が大きかった。

ミスがでてもあたり前?というか平然としていた頃が、ミスした選手は恥しくなるほどミスが目立って減ってきたことであった。

しかし、練習試合をやる機会が少なく、相手の出方によって対応していく能力がチームに備えていないのか実は頭の痛いところだった。ジュニアは、目先のことよりも将来この中から全日本選手を育てていく場合、テクニック以上に基本を今迄以上に固めてすすんでいく時期だと私は思う。

日本×台湾第1戦から

従って第一回戦の台湾に勝利を譲ったのは第一に経験不足の差（へいろんなファクターにあるが）と言わざるをえない。

第二戦は、自分達の持ち味をだし快勝したが、この試合でチーム選手とも随分自信をつけさせてくれた。

6月の対サウジアラビア戦前の合宿では、一人一人意欲的にとりくみ、練習試合ではいいプレーが多くでるようになった。

この合宿でも基礎プレーの反復と体力養成（特に防御における）に主眼をおいてつづけてきた。

結局御承知の通りサウジアラビアが来日せず、あっけなく代表権を得たが、勝って真のアジアの代表になりたかったのが本心であった。

さて、本大会に向けては、今迄の基本プレーを重視しつつ、国内での強豪チームとのゲームを通しチームのレベルアップを計りたいと思う。特に防御への意識、一つのミスの重大さの意識をさらに植えつけていきたいと思う。

大型プレーヤーは、国内で通じた直線的なプレーの脱皮を、小柄な人の持っている器用さ、敏しょう性をみて研究し、選手にはこのポジションなら（このプレーなら）任せてほしいといった確固たるものに大会まで近づけていきたいと思う。

世界ジュニア選手権アジア予選 日本選手団

◇……男子……◇

- 監督　木野　実（日本協会強化コーチ）
- コーチ　本田　洋（日本協会強化コーチ）
- GK
  - ①矢内　浩（国士館大）189cm
  - ②簑輪　正雄（名城大）187
  - ⑯小野　司（大阪体大）184
- FP
  - ②寺山　敦雄（日体大）178
  - ③中川　英二（中大）178
  - ④松岡　寛（大崎電気）180
  - ⑤東江　正作（大崎電気）170
  - ⑥立木　浩二（名城大）183
  - ⑦高砂　吉博（同志社大）184
  - ⑧小山　裕司（早大）178
  - ⑨中島　昭博（筑波大）178
  - ⑩田口　隆（日大）182
  - ⑪山口　克博（日鉄建材）180
  - ⑬田口　勝利（大同特殊鋼）187
  - ⑭荷川取義浩（中部工大）185
  - ⑮玉村　健次（大阪体大）182

◇……女子……◇

- 監督　伊藤　宏幸（日本協会強化コーチ）
- コーチ　樫塚　正一（日本協会強化コーチ）
- GK
  - ①荒木　晴美（立石電機）172cm
  - ⑫畑添真由美（武庫川女大）170
  - ⑯葛生　豊子（日立栃木）168
- FP
  - ②増永真奈美（プラザー工業）158
  - ③松下　泉（プラザー工業）163
  - ④鈴木　敬子（筑波大）172
  - ⑤河原　敦子（筑波大）160
  - ⑥手打ひろみ（日立栃木）161
  - ⑦前田　重子（日立栃木）163
  - ⑧志村　和子（日本ビクター）165
  - ⑨近藤ひろ子（立石電機）155
  - ⑩若林美智子（ジャスコ）166
  - ⑪斉藤　歩美（東京重機）164
  - ⑬寺沢　路子（ジャスコ）167
  - ⑭秋成　圭子（大和銀行）165
  - ⑮太田　尚美（日本ビクター）160

■女子■

1回戦の第1カード・日本×中国の2試合は、4月23、25の両日北京首都体育館で行われた。

▽第1戦

中国 20（13 7 ― 5 7）12 日本

得	【中国(身長)】		【日本】	得
0	劉玉梅(175)	GK	荒木	0
0	鄭玲(173)	GK	畑添	0
0	高秀敏(177)	FP	志村	5
6	王明星(174)	FP	増永	0
0	張為紅(172)	FP	松下	0
0	白云霞(178)	FP	手打	1
3	孫秀蘭(168)	FP	前田	4
0	張強(173)	FP	若林	0
4	陳珍(172)	FP	斉藤	0
2	李蘭(173)	FP	河原	1
2	范玉梅(171)	FP	秋成	1
3	鄭愛晨(178)	FP	寺沢	0
20	（3）	PT	（5）	12

▽第2戦

中国 26（17 9 ― 7 4）11 日本

得	【中国】		【日本】	得
0	鄭玲	GK	荒木	0
0	劉玉梅	GK	葛生	0
0	鄭愛晨	FP	志村	3
3	范玉梅	FP	手打	0
3	李蘭	FP	増永	4
6	王明星	FP	河原	2
0	張為紅	FP	松下	1
8	孫秀蘭	FP	前田	1
4	陳珍	FP	秋成	0
0	白云霞	FP	若林	0
2	張強	FP	近藤	0
0	甘春燕	FP	斉藤	0
26	（5）	PT	（2）	11

◇

1回戦の第2カード・韓国×台湾の2試合は、5月22、23の両日ソウルのヤム・シル体育館で行われた。

▽第1戦

韓国 27（15 12 ― 12 4）16 台湾

得	【韓国(身長)】		【台湾(身長)】	得
0	金美玉(165)	GK	茎雪芳(170)	0
0	孫美娜(167)	GK	林春媚(166)	0
2	朴銀子(164)	FP	鄭懐敏(164)	4
7	尹秉順(178)	FP	黄敬敏(175)	3
3	金先玉(167)	FP	劉月桃(172)	0
3	金貞任(166)	FP	劉麗淑(164)	5
6	柳京美(167)	FP	楊美芳(164)	0
0	安春仙(166)	FP	田美華(167)	0
5	崔銀栄(170)	FP	黎模文(168)	0
0	趙順玉(161)	FP	劉玉芬(164)	4
1	尹英淑(164)	FP	徐孝貞(163)	0
0	張玉粉(163)	FP	鄭金鳳(165)	0
27				16

（審・光鳥　狩野）

▽第2戦

韓国 21（7 14 ― 9 8）17 台湾

得	【韓国】		【台湾】	得
0	金美玉	GK	茎雪芳	0
0	孫美娜	GK	林春媚	0
3	尹英淑	FP	鄭懐敏	4
5	崔銀栄	FP	黄敬敏	1
3	尹秉順	FP	劉麗淑	4
2	金先玉	FP	劉月桃	0
8	柳京美	FP	田美華	0
0	朴銀子	FP	劉玉芬	3
0	趙順玉	FP	黎模文	0
0	張玉芬	FP	楊美芳	0
0	金貞任	FP	鄭金鳳	5
0	安春仙	FP	蘇麗紅	0
21				17

（審・光鳥　狩野）

◇

決勝戦・中国×韓国の2試合は、6月2、3の両日、東京・駒沢屋内球技場で行われた。

▽第1戦

韓国 20（11 9 ― 9 8）17 中国

【中国】

	選手	得
GK	劉玉梅	0
GK	鄭　玲	0
FP	徐桂芳	0
FP	王明星	6
FP	張為紅	0
FP	孫秀蘭	2
FP	張　強	0
FP	甘春燕	2
FP	陳　珍	3
FP	李　蘭	4
FP	范玉梅	0
FP	鄭愛晨	0
PT	(0)	17

【韓国】

	選手	得
GK	全美玉	0
GK	孫美娜	0
FP	朴銀子	0
FP	尹秉順	8
FP	柳京美	3
FP	金先玉	4
FP	金貞任	1
FP	安春仙	0
FP	崔銀栄	3
FP	趙順玉	0
FP	張玉芬	1
FP	尹英淑	0
PT	(4)	20

(審・千野 斉藤)

▽第2戦

中国 17 (10－7 / 7－5) 12 韓国

【韓国】

	選手	得
GK	全美玉	0
GK	孫美娜	0
FP	朴銀子	0
FP	崔銀栄	1
FP	尹秉順	2
FP	柳京美	5
FP	金先玉	3
FP	金貞任	1
FP	安春仙	0
FP	尹英淑	0
FP	趙順玉	0
FP	張玉芬	0
PT	(1)	12

【中国】

	選手	得
GK	劉玉梅	0
GK	鄭　玲	0
FP	王明星	2
FP	李　蘭	5
FP	范玉梅	1
FP	白雲霞	2
FP	孫秀蘭	3
FP	張　強	0
FP	陳　珍	3
FP	徐桂芳	0
FP	鄭愛晨	0
FP	甘春燕	1
PT	(2)	17

(審・千野 斉藤)

2試合合計得点34－32で中国1位、韓国2位。

（注）テーブル内の身長は㎝。

1、2回戦共に中国チームの高さと幅の広い動きに翻弄された。まず高さの条件をどの様な方法で防ぐかが課題であり、次にステップの広さと動きの大きさを攻防共にタイミングと位置をどう判断を行うかがポイントであった。

しかし、1、2戦共前記の課題を日本のペースに持ち込むことは出来ず、中国チームのペースによって終了した。特に、前後半の15分を過ぎた後の体力消耗から来る守りの判断の甘さ、攻撃の単調さこの両方の攻防展開から日本チームは苦しくなり、中国チームはますますペース配分に確実性を加え日本チームは次々と加点されることになった。

〔A〕中国チームの攻撃システム

シングル・ポストで展開し、ワンフェイントによって攻撃を開始し、最終サイドでノーマークシュートが途中でカット・インプレーに切り換える方法。その中でポストマンの動きが常に攻撃とコンビがとれており、非常に印象的であった。

1：5防御には、シングル・ポスト〜ダブル・ポストに変化し、アウト・ブロックを使って3対2を作り出す日本とよく似た攻撃展開をする。その間にミドルシューターにチャンスがあれば個人プレーに切り換わる。しかし、単独の個人技は非常に少ない。

展開中のパステクニックの多彩な中にボールをキャッチする前の動きのフットワーク・ステップが非常に巧いと感じた。又、チャンスと見たときのカット・インプレーの速さは驚くばかりであった。170㎝以上のプレーヤーであるが、動きに速さがあるためかさほど大きくは感じなかった。

〔B〕防御法

0：6防御でボクシング・フットワークを踏み、まったくヨーロッパスタイルと変わらない。

攻撃に比べ防御は動きマークが弱いと感じた。前後の動きは、横に比べると弱く少なかった。日本チームのブロックプレーは成功しなかったが、マンツーマンのフェイントは何度か成功したもののシュートまで結びつけるプレイは出来なかった。サイドの攻撃者に対するマークは弱く、日本チームのサイドシュートは数多くシュートを打つことが出来、成功した。日本チームの得点の½はサイドシュートであった。

〔C〕日本チーム

攻撃はシングルポストよりのダブル・ポストに変わる方法を取った。その中でローリングを加えながら攻撃展開を試みたが、ローリングが横に流れすぎ、縦の攻撃に切り換えることが出来なかった。又、得点機を作ることが出来なかった。又、シューターはシュート・コースの甘さあるいはシュートに入るまでの動き＝速さがなければ完全に防御に守られるか、ゴールからはずれたコースを打つことになった。ブロックプレーのブロックが完全でない為に45度〜サイド間の攻撃は思う様に出来なかった。

日本チーム攻撃で成功したのはクィックシュートか単独のサイド攻撃で、センターを中心に45度間の攻撃の成功は、非常に少なかった。

速攻は、相手のイージーシュートが少ない為と防御の疲れから来る疲労で、速攻の回数も少なかったし、攻撃展開中にパスとキャッチのミスがあり、得点に結びつけることが出来ないプレイが多くあった。

中国×韓国から

第3回世界ジュニア予選リーグ組み分け

▽A組
- ユーゴ
- 東ドイツ
- スイス
- 日　本

▽B組
- デンマーク
- チェコ
- スペイン
- ナイジェリア

▽C組
- ソビエト
- アイスランド
- オランダ
- ポルトガル

▽D組
- スウェーデン
- フランス
- 西ドイツ
- アルゼンチン

▽日本の日程

12月4日　対東ドイツ
5日対ユーゴ
6日対スイス

世界ジュニア組み合せ

IHF（国際ハンドボール連盟）は、第3回世界ジュニア選手権の参加国と予選リーグ日程を明きらかにした。

それによると日本は、ユーゴ東ドイツ、スイスと同組で、予選リーグの各組1、2位は「準決勝リーグ」に、同3、4位は「9〜16位決定リーグ（2グループ）」に出場する。

また、女子の予選リーグの組み分けは、

〔A組〕ソビエト、西ドイツ、イタリア、コート・ジ・ボアール、

〔B組〕ユーゴ、オランダ、アメリカ、韓国

〔C組〕デンマーク、フランスカナダ、中国

と発表された。

スカイプレーを考える

その (1)　全日本総合選手権大会から

川　上　整　司

ハンドボールの試合の中で、最も人気のある、そして素晴らしいプレーと言えば、何と言ってもスカイプレーである。日本総合選手権の結果をある一流新聞がスカイプレーとしてコラムをもうけてくれたり、体育の授業の中でも盛んにスカイプレーと言いながら試みる光景がみられるように、一般の人々の中でも、ハンドボールと言えば、まずスカイプレーと口にするまでになった。素人受けするだけのものであると言えばそれまでだが、国内の人気スポーツは、すべて独特の個性を持ち、見る人々に感動を与え、魅了させ、ある時は人生感さえ変えさせるようなシーンさえあるから素晴らしいのだ。

したがって、ハンドボール競技にも、このような魅力的なプレーが生れ育ってきたのだから、大いに生かして、競技者も、又観衆も共に楽しめる競技へと高めて行くことが大切ではなかろうか。日本のスポーツ界のように、世界のすべてのスポーツが行われている、と言っても過言ではないと思うが日本人にそれらの適性があるかは別として日本で人気のあるスポーツがある面では最高のスポーツと言えるのかも知れぬ。だからこそ、ただ単に、走る、跳ぶ、投げる等の繰り返しでは観衆は物足りないのである。ここらでハンドボールも一般の人々を引きつける魅力あるプレーを確立して行く時に来たのではなかろうか。

そこで現在、日本国内の試合の中でどのようにスカイプレーが使われているかを、まず最初に、全日本総合選手権大会の13試合を選び調査してみた。その目的は1試合中に何回あるか、どのような攻撃パターンが多いのか、時間的にどうか、何点差で試みているか、更にそれがリードしている場面かその逆か等を主な調査の狙いとしてみることにした。

(1)　試合中に何回使われたか

13試合の中でスカイプレーは29回あり、そのうち成功回数は15、失敗回数は14であった。試みた回数の最高は、1試合5回で、最低は、1試合1回であり、0という試合はなく、いずれの試合に於いても1回は見られた。最も確率の高い値を示したのは、大同特殊鋼対千葉教員で、大同が3の3で百%を示し、千葉教員も1の1で合計4回試み、いずれも成功という試合もあった。表1から見ると、最早スカイプレーは1試合の中では、必ず試み、どのチームも持っている技の一つであり、自然と生れるコンビプレーとみてよいのではないか。

1）スカイプレイのチーム別試技数　　表1

チーム名	栃の葉クラブ	トヨタ車体	三陽商会	日体大	本田技研	大崎電気	日新製鋼	中村荷役	大同特殊鋼	千葉教員	湧永薬品	栃の葉クラブ	大同特殊鋼	早稲田大	大同特殊鋼	大阪イーグルス	本田技研	三陽商会	大阪イーグルス	日新製鋼	湧永薬品	自衛隊勝田	早稲田大	三景	大阪イーグルス	全日本大	合計
得点	35	24	39	22	28	23	20	18	36	13	27	10	26	12	31	13	22	16	21	19	44	17	16	15	29	17	593
試技	2	3	1		1	1	1	1	3	1	3	2	3		1	1		1		1	1			1	1		29
成功		2	1		1	1			3	1		1	1		1			1		1					1		15
失敗	2	1					1	1			3	1	2			1					1			1			14

(2)　どの位置から最後のパスが出されたか。

どの位置からパスされコンビを作るか、ということについては、B―Aが6回で最も多く、次にG―Dが5回、H―Aが4回、F―Aが3回と続いている。H―A、B―Aの見分け方はなかなか困難であったが、ジャンプパスをした足の位置がフリースローラインの外側をHとした。B―Aの場合は成功率が33%に対しH―Aは100%の確率を示している。B―A、H―Aのパターンでは、B、Hが右利きの選手がシュートモーションで入り、パスあるいはフェイント・パスのいづれかが多かった。逆のF―Gのパターンは、Fが左利きの選手で同様にシュートモーションやフェイントからのパスである。

いづれのパターンも、外側から内側に入りながらディフェンスを引き寄せて逆にパスという基本的な攻撃法を応用していた。この調査では、最後のパスはGKからみて左から右へ流れるパスが圧倒的に多く、自然の流れの中でパスをし、スカイプレーを作っていることが分析された。

(3)　時間的に観た使い方

時間的にみた使い方については30分ハーフの前半15分と後半15分に分けてみると、前後半共に15分

表2

最後のパスの流れ	回数	成功	失敗	成功率
B ～ A	6	2	4	0.33
G ～ D	5		5	0.00
H ～ A	4	4		1.00
F ～ A	3	1	2	0.33
F ～ G	2	2		1.00
K ～ D	1		1	0.00
I ～ A	1	1		1.00
G ～ A	1	1		1.00
F ～ C	1		1	0.00
D ～ C	1		1	0.00
A ～ F	1	1		1.00
F ～ B	1	1		1.00
G ～ C	1	1		1.00
C ～ A	1	1		1.00
合計	29	15	14	0.52

3）時間的に観た使い方　　表3

	時間	0分～5分	5分～10分	10分～15分	15分～20分	20分～25分	25分～30分	合計
前半	試技	1			3	4	6	14
	成功	1			1	2	2	6
後半	試技	1	2	1	3	4	4	15
	成功	1	1	0	2	3	2	9

以後に多い。特に前半30分に於いては、15分以内では、たったの1回であり、後半は13回も試みていた。後半に入っても15分以内4回に対して、11回と後半に入っても前半同様、圧倒的に多いことがわかった。どうしてこのような変化が出るのかは、この調査だけでは明らかにならないので、ここでは何とも言えない。

(4) 点差での比較

点差での比較をみてみると、接近している場面では少なく、10点以上差のついたところで11回と多く、1点リードから5点リード迄では5回と半数にも満たないことがわかる。同点の場面は2回で½の確率を示した。

一つは大同特殊鋼対千葉教員でスタート51秒で大同が試みてB—Aというパターンで、鮮かに決めている。もう一つは、湧永薬品対自衛隊勝田で前半6対6、時間は15分33秒、湧永が試みてG—Cというパターンで、これは失敗に終っている。点差のない場面は、13試合中たったの二つであり、それを試みたチームは、いずれもハンドボール界の横綱チームだった。

逆にリードされた場面でも、9点以上リードされた場面で7回、5点差迄では2回とリード時と同様に少差では少ない。2点差では三景対早大が終始シーソーゲームを展開、後半ギリギリの29分15秒で三景が延長への最後の望みを賭けて、LゾーンからFゾーンに入り右にフェイクをかけてCゾーンと繋いだが、惜しくも失敗に終っている。一方、日新製鋼対中村荷役で、中村が5点リードされて前半23分40秒、Bゾーンから左側にフェイクをかけて逆のFゾーンに繋いで見事に決め、その調子を乗せて、更に2点連取し、2点差とつめ寄っている。

(5) 13試合から観たスカイプレーの使い方

スカイプレーというのは、大きな魅力を持っているが、個々の技術が出来なくてはまず無理である中学生や体育の授業等で興味本位で真似るのはよいとしても、高校大会等を目指すためには、余りこのプレーに拘わることは、感心出来ない。試合に於て、決まった時は相手を威圧するだけのクリーンヒットである。又、気分的な盛り上がりはこの上なしの得点でもある。しかし、失敗も多いことを忘れてはならない。この調査だけでも約半数近くは相手ボールに変っていることが明らかにされている。又これはここで調べた結果ではないが、応々にして、それらは速攻の餌食になることが多い。

この大会では殆んどが二人のコンビプレーとして、使われていて、ダブルスカイプレーのように4人あるいは5人を要するプレーはみられなかった。ポストプレーやカットイン、あるいは45度から外側にフェイクをかけ、そしてサイドを引き付け、サイドから打たせる方法等と同様にコンビプレーの一つとして使っていることがわかった。

さすがにベテラン揃いの日本総合選手権である。相手チームの次の展開の読みの早さもあるので、あれだけの技術を持ち備えた選手達も簡単に仕掛けることが出来なかったのと、多くの人数を使うスカイプレーよりコンビスカイプレーの方が効率が良いとみての結果だったと思う。

2）どのパターンが多く使われたか

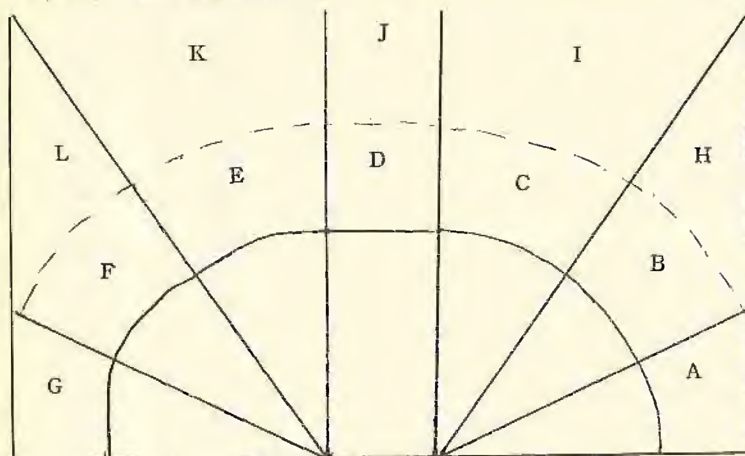


図1

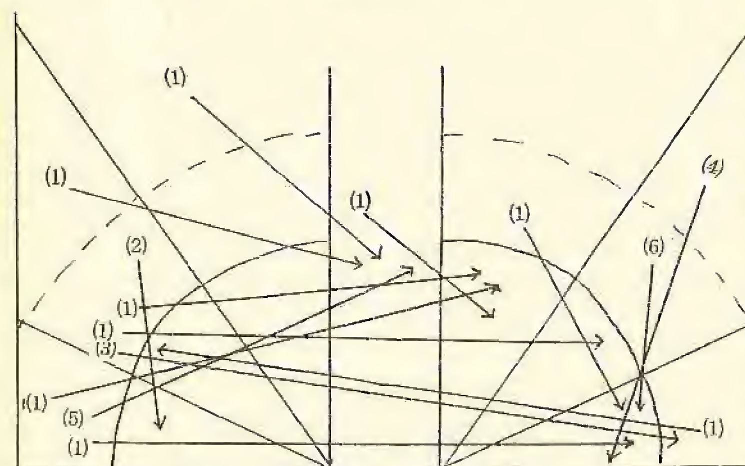


図2　パスの流れ

4）点差での比較

表4

イ）リードしている場合

	得点差	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11点以上	合計
前半	試技	2		1	1	1		1			1	1	2	10
	成功	1			1						1		2	5
後半	試技						1					1	6	8
	成功						1					1	2	4

表5

ロ）リードされている場合

	得点差	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11点以上	合計
前半	試技						1				2		1	4
	成功										1			1
後半	試技		1					2			1	1	2	7
	成功							2			1	1	1	5

各地学生春季リーグ戦 ②

◆関東学生春季リーグ戦

◎男子・2部

明星大 18－18 駒大
明大 24－7 立大
東大 19－17 順大
東海大 27－18 茨城大
順大 31－7 立大
東海大 25－13 明星大
明大 25－21 東大
駒大 32－10 立大
東海大 31－17 東大
明大 20－17 明星大
茨城大 20－19 駒大
順大 19－14 茨城大
駒大 24－14 東大
東海大 19－9 立大
順大 24－15 明星大
茨城大 17－12 明大
東大 25－19 明星大
明星大 25－11 立大
茨城大 28－11 東大
駒大 25－21 順大
駒大 21－19 東海大
東海大 36－12 順大
東海大 27－22 明大
茨城大 33－10 立大
東大 20－10 立大
茨城大 22－17 明星大
駒大 34－20 明大
順大 34－17 明大

【順位】①東海大②駒沢大③茨城大④順天堂大⑤明治大⑥東京大⑦明星大⑧立教大

◎男子・3部

上智大 19－17 青学大
横国大 24－20 横商大
東理大 26－16 専修大
東理大 19－19 芝工大
専修大 25－17 青学大
横商大 22－18 上智大
東学大 29－18 芝工大
東理大 21－13 横国大
横商大 24－18 青学大
芝工大 25－20 専修大
上智大 34－14 専修大
東理大 28－27 横商大
青学大 22－20 芝工大
東学大 27－17 横商大
東理大 20－18 上智大
横国大 15－5 青学大
学芸大 32－8 専修大
芝工大 19－17 上智大
横国大 33－24 専修大
東理大 20－15 青学大
上智大 18－14 東学大
芝工大 25－22 横商大
横商大 19－18 専修大
東理大 16－16 東学大
横国大 31－20 芝工大
東学大 28－21 青学大
横国大 24－17 上智大
横国大 19－18 東学大

【順位】①東理大②横国大③学芸大④芝工大⑤上智大⑥横商大⑦青学大⑧専修大

◎男子・4部

東経大 24－13 大東文大
横市大 18－12 東洋大
埼玉大 18－17 神大
千工大 18－17 横市大
埼玉大 22－10 東洋大
神大 31－14 横市大
東経大 24－11 東洋大
防衛大 25－22 大東文大
埼玉大 22－16 千工大
東経大 20－15 横市大
神大 26－8 東洋大
埼玉大 18－17 大東文大
防衛大 16－9 東洋大
大東文大 22－14 千工大
神大 20－18 千工大
防衛大 16－16 埼玉大
千工大 22－18 東洋大
横市大 25－17 大東文大
東経大 33－18 防衛大
神大 30－14 防衛大
大東文大 25－19 東洋大
東経大 25－15 千工大
埼玉大 19－17 横市大
神大 32－11 大東文大
防衛大 28－17 横市大
東経大 21－14 埼玉大
東経大 15－15 神大
防衛大 21－18 千工大

【順位】①東経大②神大③埼玉大④防大⑤横市大⑥千葉工大⑦大東大⑧東洋大

◎男子・5部

関学大 15－12 武工大
武蔵大 18－8 明学大
東工大 13－9 成蹊大
一橋大 13－9 武蔵大
東工大 14－7 武工大
創大 25－22 成蹊大
創大 25－11 明学大
一橋大 21－14 成蹊大
関学大 18－17 東工大
一橋大 14－11 創大
関学大 20－14 明工大
武蔵大 19－17 東工大
武工大 24－12 成蹊大
一橋大 26－16 武工大
創大 20－15 武蔵大
創大 20－14 関学大
武工大 15－13 武蔵大
武蔵大 22－15 関学大
明学大 16－16 成蹊大
一橋大 20－17 東工大
一橋大 22－12 明学大
創大 17－17 武工大
関学大 24－18 成蹊大
武蔵大 25－17 成蹊大
武工大 19－8 名学大
創大 25－14 東工大
関学大 14－14 一橋大

【順位】①一橋大②創価大③関東学院大④武蔵大⑤武工大⑥東工大⑦成蹊大⑧明学大

◎男子・6部

▽Aブロック

亜大 15－14 和光大
文教大 31－18 独協大
都留文大 25－12 拓大
都留文大 14－14 独協大
文教大 24－12 拓大
文教大 29－15 亜大
和光大 27－14 拓大
独協大 23－17 和光大
都留文大 23－15 亜大
亜大 25－15 拓大
文教大 27－17 和光大
和光大 19－18 都留文大
独協大 20－17 亜大
独協大 34－19 拓大
文教大 27－19 都留文大

▽Bブロック

都立大 20－13 農工大
千葉大 37－10 工芸大
日工大 38－13 農工大
都立大 不戦勝 工芸大
千葉大 27－3 農工大
日工大 不戦勝 工芸大
東農大 21－18 都立大
日工大 16－13 千葉大
農工大 23－15 工芸大
東農大 42－11 農工大
日工大 44－15 都立大
東農大 32－17 工芸大
都立大 18－16 千葉大
日工大 35－14 農工大
東農大 23－16 千葉大

▽11位決定戦
工芸大 21－20 拓大

▽9位決定戦
亜大 不戦勝 農工大

▽7位決定戦
和光大 16－15 千葉大

▽5位決定戦
都留文大 18－10 都立大

▽3位決定戦
独協大 不戦勝 日工大

▽決勝
文教大 24－17 東農大

【順位】①文教大②東京農大③独協大④日本工大⑤都留文大⑥都立大⑦和光大⑧千葉大⑨亜細亜大⑩農工大⑪工芸大⑫拓大

◎女子・2部

横国大 29－7 創価大
横国大 23－4 千葉大
文教大 26－5 千葉大
茨城大 36－3 駒沢大
茨城大 18－11 都留文大
東海大 37－2 駒沢大
千葉大 20－7 創価大
東海大 22－10 都留文大
茨城大 20－17 東海大
東海大 33－16 文教大
都留文大 10－9 千葉大
茨城大 25－10 横浜大
創価大 9－3 駒沢大
横国大 19－17 文教大

【順位】①茨城大②横国大③東海大④文教大⑤都留文大⑥千葉大⑦創価大⑧駒沢大

◆関東学生入れ替え戦

▽男子・1～2部
法大（1部8位）30（14－12、16－10）22 東海大（2部1位）
早大（1部7位）34（18－8、16－8）16 駒大（2部2位）
（法大、早大とも1部残留）

▽男子・2～3部
立大（2部8位）13（8－6、5－2）8 東理大（3部1位）
横国大（3部2位）21（10－9、11－11）20 明星大（2部7位）
（立大は2部残留、横国大は2部昇格）

▽男子・3～4部
専大（3部8位）16（9－5、7－10）15 東経大（4部1位）
青学大（3部7位）18（7－8、11－8）16 神大（4部2位）
（専大、青学大とも3部残留）

▽男子・4～5部
一橋大（5部1位）20（10－8、10－9）17 東洋大（4部8位）
創価大（5部2位）24（14－5、10－10）15 大東文大（4部7位）
（一橋大、創価大とも4部昇格）

▽男子・5～6部
文教大（6部1位）30（15－10、15－6）16 明学大（5部8位）
東農大（6部2位）21（11－9、10－6）15 成蹊大（5部7位）
（文教大、東農大とも5部昇格）

▽女子・1～2部
明徳短大（1部6位）17（2－1、2－2、6－9、7－4）16 茨城大（2部1位）

◆関東学生新人戦

≪男子≫

▽1回戦
早大 23－16 筑波大
一橋大 21－17 青学大
上智大 21－14 関学大
横国大 不戦勝 農工大
中大 30－8 武工大
国士大 30－16 横商大
神奈川大 19－12 東経大

▽2回戦
駒大 18－15 早大
茨大 26－7 千葉大
日体大 25－22 日大
東理大 22－9 横市大
芝工大 15－14 一橋大
専大 23－12 東外大
東農大 20－9 亜大
東海大 26－8 上智大

▽3回戦
横国大 23－15 都留大
東大 24－13 山梨大
慶大 22－10 大東大
中大 28－9 創価大
東学大 28－14 和光大
法大 31－13 順大
成蹊大 10－7 明学大
国士大 22－15 神奈川大
駒大 19－14 茨大
日体大 22－16 東理大
専大 14－11 芝工大
東海大 33－15 東農大
東大 14－12 横国大
中大 25－13 慶大
法大 30－13 東学大
国士大 41－5 成蹊大

▽準々決勝
日体大 32－25 駒大
東海大 40－21 専大
中大 32－13 東大
法政大 23－22 国士大

▽準決勝
東海大 26－21 日体大
中大 31－23 法政大

▽決勝
中大 28（12－10、16－10）20 東海大

≪女子≫

▽Aブロック
東女体大 17－15 日女体大
日女体大 25－10 東学大
東女体大 28－5 東学大

▽Bブロック
筑波大 34－7 東海大

日体大 50—5 東海大
筑波大 21—16 日体大
▽3位決定戦
日体大 26—16 日女体大
▽決勝
筑波大 16（9—7、7—8）15 東女体大

◆北海道学生春季リーグ戦

◎男子2部

小樽商大 23—7 北見工大
室蘭工大 16—8 北見工大
小樽商大 14—10 北海学園大
北大水産 20—18 室蘭工大
北海学園大 19—10 北見工大
室蘭工大 22—13 北海学園大
小樽商大 20—13 北大水産
北海学園大 29—21 北大水産
室蘭工大 15—15 小樽商大

【順位】①小樽商大②室蘭工大③北海学園大④北大水産学部⑤北見工大

◎男子3部

北星学園大 27—7 道都大
北星学園大 21—14 学園北見大
札幌商大 18—10 道都大
北星学園大 28—9 札幌商大
学園北見大 26—9 道都大
札幌商大 18—10 学園北見大

【順位】①北星学園大②北海学園北見大③札幌商大④道都大

◆北信越学生春季リーグ戦

◎1部リーグ

福井大 25（10—5、15—3）8 金沢大
金沢工大 23（12—3、11—10）13 富山大
信州大 38（18—5、20—4）9 福井大
金沢工大 24（11—7、13—4）11 金沢大
信州大 15（9—8、6—3）11 富山大
金沢大 19（5—10、14—6）16 信州大
富山大 19（9—5、10—6）11 福井大
信州大 14（8—3、6—9）12 金沢工大
金沢大 17（11—3、6—8）11 富山大
金沢工大 24（15—11、9—7）18 福井大

【順位】①信州大3勝1敗（プラス32）②金沢工大3勝1敗（27）③金沢大3勝1敗（14）④富山大1勝3敗⑤福井大4敗

◎2部リーグ

長野大 21—17 新潟大
金沢医大 28—7 金沢美大
金沢医大 18—7 新潟大
長野大 23—9 金沢美大
新潟大 20—19 金沢美大
長野大 28—16 金沢医大

【順位】①長野大3勝②金沢医科大2勝1敗③新潟大1勝2敗④金沢美術工芸大3敗

◆東海学生春季リーグ戦

◎男子1部

中京大 1勝 26（13—9、13—9）18 名城大 1敗
中工大 1勝 36（19—11、17—11）22 愛学大 1敗
名学大 1勝 25（11—12、14—3）15 岐阜大 1敗
中京大 2勝 26（13—11、13—8）19 中工大 1勝1敗
名城大 1勝1敗 26（13—5、13—4）9 愛学大 2敗
中京大 3勝 21（10—8、11—5）13 名学大 1勝1敗
愛学大 1分2敗 20（11—10、9—10）20 名学 1勝1分1敗
中京大 4勝 36（19—5、17—6）11 岐阜大 2敗
岐阜大 1勝2敗 22（11—9、11—12）21 愛学大 1分3敗
名城大 2勝1敗 30（13—11、17—11）22 岐阜大 1勝3敗
中工大 2勝1敗 31（19—4、12—12）16 名学 1勝1分2敗
中工大 3勝1敗 38（25—5、13—6）11 岐阜大 1勝4敗
中京大 5勝 32（14—10、18—4）14 愛学大 1分4敗
名城大 3勝1敗 31（15—7、16—9）16 名学 1勝1分3敗
中工大 4勝1敗 27（12—10、15—9）19 名城大 3勝2敗

東海男子勝敗表

	中京	中工	名城	名学	岐阜	愛学	勝	敗	分	得失
①中京大	×	○	○	○	○	○	5	0	0	+66
②中工大	●	×	○	○	○	○	4	1	0	+57
③名城大	●	●	×	○	○	○	3	2	0	+24
④名学大	●	●	●	×	○	△	1	3	1	−28
⑤岐阜大	●	●	●	●	×	○	1	4	0	−69
⑥愛学大	●	●	●	△	●	×	0	4	1	−50

◎女子1部

中京女大 1勝 32（17—0、15—0）0 南山大 1敗
中京大 1勝 12（不戦勝）0 日福大 1敗
愛教大 1勝 14（8—4、6—0）4 三重大 1敗
中京女大 2勝 30（14—1、16—1）2 日福大 2敗
南山大 1勝1敗 7（5—2、2—4）6 三重大 2敗
愛教大 2勝 20（9—0、11—1）1 南山大 1勝2敗
三重大 1勝2敗 9（6—1、3—2）3 愛学大 1敗
中京大 2勝 27（14—2、13—2）4 南山大 1勝3敗
中京女大 3勝 18（9—0、9—0）0 三重大 1勝3敗
愛教大 3勝 14（9—6、5—4）10 日福大 3敗
三重大 2勝3敗 9（4—2、5—3）5 日福大 4敗
愛学大 1勝1敗 9（4—1、5—2）3 南山大 1勝4敗
愛教大 4勝 14（8—4、6—3）7 愛学大 1勝2敗
南山大 2勝4敗 10（5—5、5—4）9 日福大 5敗
中京大 3勝 28（12—3、16—1）4 愛学大 1勝3敗
中京女大 4勝 25（14—0、11—0）0 愛学大 1勝4敗
中京女大 5勝 17（8—3、9—4）7 愛教大 4勝1敗
中京大 5勝 14（7—3、7—4）7 三重大 2勝4敗
愛学大 2勝4敗 20（9—2、11—6）8 日福大 6敗

東海女子勝敗表

	中女	中京	愛教	三重	愛学	南山	日福	勝	敗	分	得失
①中京女	×	○	○	○	○	○	○	6	0	0	+114
②中京大	●	×	○	○	○	○	○	5	1	0	+81
③愛教大	●	●	×	○	○	○	○	4	2	0	+14
④三重大	●	●	●	×	○	●	○	2	4	0	−26
⑤愛学大	●	●	●	●	×	○	○	2	4	0	−44
⑥南山大	●	●	●	○	●	×	○	2	4	0	−78
⑦日福大	●	●	●	●	●	●	×	0	6	0	−61

5 中京大 勝 21（12—2 9—3）5 愛教大 4勝2敗
6 中京女大 勝 12（8—7 4—4）11 中京大 5勝1敗

◎男子2部

名大 15—8 三重大
愛教大 21—19 名工大
滋賀大 22—17 三重大
滋賀大 17—16 愛教大
名工大 19—10 三重大
滋賀大 25—13 愛知大
愛教大 25—10 愛知大
名大 11—9 名工大
愛知大 19—15 三重大
愛教大 14—10 名大
名工大 14—10 愛知大
滋賀大 33—21 名工大
名大 22—9 愛知大
滋賀大 19—13 名大
愛教大 28—15 三重大

【順位】①滋賀大5勝②愛教大4勝1敗③名大3勝2敗④名工大2勝3敗⑤愛知大1勝4敗⑥三重大5敗

◎男子3部

静岡大 24—14 日本福祉大
静岡大 24—17 東海大
東海大 18—13 日本福祉大
南山大 16—14 静岡大
南山大 24—14 日本福祉大
南山大 28—7 東海大

【順位】①南山大3勝②静岡大2勝1敗③東海大1勝2敗④日本福祉大3敗

◆関西学生春季リーグ戦

◎男子2部

神戸大 17—16 天理大
大阪市大 23—21 神戸大
大阪府大 24—12 京教大
天理大 27—17 京大
大阪大 29—24 京教大
大阪大 29—13 神戸大
京大 21—18 京教大
大阪大 23—21 天理大
大阪府大 24—19 大阪市大
天理大 33—21 大阪府大
京大 19—18 大阪市大
大阪府大 23—21 大阪大
天理大 33—17 京教大
神戸大 20—17 京教大
大阪府大 22—21 京大
大阪大 35—16 大阪市大
天理大 33—17 大阪市大
神戸大 23—22 京大
大阪市大 20—17 京教大
神戸大 15—14 大阪府大
大阪大 35—22 京大

【順位】①大阪大②神戸大③天理大④大阪府大⑤京大⑥大阪市大⑦京教大

◎男子3部

甲南大 24—12 追手門大
大阪学院大 19—12 和歌山大
奈良教大 23—17 大阪教大
奈良教大 21—14 立命館大
大教大 20—17 甲南大
追手門大 24—19 和歌山大
大阪学院大 25—21 立命館大
和歌山大 18—18 甲南大
奈良教大 27—18 追手門大
立命館大 15—14 甲南大
立命館大 15—14 大教大
大阪学院大 32—18 追手門大
和歌山大 22—17 大教大
大阪学院大 29—17 甲南大
大教大 29—21 追手門大
大阪学院大 36—18 奈良教大
和歌山大 17—13 立命館大
奈良教大 19—19 和歌山大
大阪学院大 33—18 大教大
奈良教大 23—15 甲南大
立命館大 26—12 追手門大

【順位】①大阪学院大②奈良教大③和歌山大④立命館大⑤大教大⑥甲南大⑦追手門大

◎男子4部

大阪工大 27—11 龍谷大
桃山学院大 18—15 大阪薬大
滋賀大 21—13 関西外大
京都府大 25—17 大阪工大
龍谷大 19—15 関西外大
桃山学院大 21—21 大阪工大
桃山学院大 21—15 京都府大
関西外大 23—14 大阪薬大
桃山学院大 16—13 龍谷大
滋賀大 21—12 京都府大
桃山学院大 25—18 関西外大
大阪工大 24—14 滋賀大
龍谷大 20—17 大阪薬大
龍谷大 18—16 京都府大
関西外大 21—18 大阪工大
滋賀大 14—9 大阪薬大
大阪薬大 24—17 京都府大
大阪工大 31—21 大阪薬大
滋賀大 21—10 龍谷大
京都府大 19—15 関西外大
滋賀大 16—14 桃山学院大

【順位】①滋賀大②桃山学院大③大阪工大④龍谷大⑤京都府大⑥関西外大⑦大阪薬大

◎男子5部

▽予選リーグ

大阪歯大 27—15 京都外大
大阪歯大 30—16 奈良大
京都外大 25—13 奈良大
大阪外大 25—12 京都工芸大
大阪外大 14—10 神船大
京都工芸大 23—16 神船大
姫路工大 不戦勝 八代大
仏教大 29—2 八代大
仏教大 20—12 姫路工大

▽順位決定リーグ

大阪外大 22—12 大阪歯大
大阪歯大 22—15 仏教大
大阪外大 25—13 仏教大
京都外大 25—17 京都工芸大
京都外大 24—17 姫路工大
姫路工大 23—20 京都工芸大
奈良大 35—8 八代大

奈良大 18—17 神船大
神船大 31—8 八代大
【順位】①大阪外大②大阪歯大③仏教大④京都外大⑤姫路工大⑥京都工芸繊維大⑦神戸商船大⑧八代学院大

◎女子2部

奈良女大 8—5 関大
奈良女大 16—13 奈良教大
関西外大 13—10 奈良教大
関西外大 17—12 滋賀大
奈良女大 15—10 関西外大
京都女大 6—3 関大
京都女大 8—5 滋賀大
奈良女大 9—2 京都女大
滋賀大 14—8 奈良教大
関大 11—6 滋賀大
関大 13—3 奈良教大
滋賀大 14—10 奈良女大
関西外大 14—8 京都女大
関西外大 15—8 関大
京都女大 10—4 奈良教大
【順位】①奈良女大②関西外大③京都女大④関大⑤滋賀大⑥奈良女大

◎女子3部

大阪薬大 16—1 京都府大
神戸大 10—10 園田大
大阪薬大 10—2 京都府大
神戸大 19—4 京都府大
園田大 14—6 京都府大
大阪薬大 16—7 神戸大
大阪薬大 18—5 園田大

神戸大 16—11 園田大
神戸大 22—6 京都府大
神戸大 11—8 大阪薬大
大阪薬大 21—8 園田大
園田大 13—3 京都府大
【順位】①大阪薬大②神戸大③園田学園女大④京都府大

◆関西学生入れ替え戦

▽男子・1〜2部
京産大（1部6位）33（16—9、17—5）14 神戸大（2部2位）
大阪大（2部1位）15（9—7、6—7）14 関学大（1部7位）
（京産大は1部残留、大阪大は1部昇格）

▽男子・2〜3部
大阪市大（2部6位）21（13—9、8—8）17 奈良教大（3部2位）
大院大（3部1位）18（11—6、7—7）13 京都教大（2部7位）
（大阪市大は2部残留、大阪学院大は2部昇格）

▽男子・3〜4部
桃山学大（4部2位）23（12—7、11—8）15 甲南大（3部6位）
追手門大（3部7位）15（6—5、9—5）10 滋賀大（4部1位）
（桃山学院大は3部昇格、追手門大は3部残留）

▽男子・4〜5部
関西外大（4部6位）30（14—11、16—9）20 大阪歯大（5部2位）
大阪薬大（4部7位）17（9—7、8—10）17 大阪外大（5部1位）
（関西外大、大阪薬大とも4部残留）

▽女子・1〜2部
成蹊大（1部6位）22（12—2、10—3）5 関西外大（2部2位）
関学大（1部7位）14（7—4、7—3）7 奈良女大（2部1位）
（成蹊女短大、関学大とも1部残留）

▽女子・2〜3部
奈良教大（2部6位）7（6—2、1—5）7 大阪薬大（3部1位）
（奈良教大は2部残留）

◆中・四国学生春季リーグ戦

◎男子・2部

修道大 26—21 岡山大
修道大 25—19 愛媛大
修道大 24—17 香川大
修道大 32—16 松山商大
岡山大 25—14 愛媛大
岡山大 30—22 松山商大
岡山大 30—27 香川大
愛媛大 20—15 松山商大
松山商大 25—24 香川大
【順位】①修道大②岡山大③愛媛大④松山商大⑤香川大

◎男子・3部

高知大 17—16 鳥取大
高知大 18—10 山口大工学
高知大 23—22 徳島大
高知大 20—10 近大呉工学
鳥取大 23—21 山口大工学
鳥取大 26—16 徳島大
鳥取大 30—9 近大呉工学
山口大工学 18—16 徳島大
山口大工学 28—13 近大呉工学
徳島大 20—20 近大呉工学
【順位】①高知大②鳥取大③山口大工学部④徳島大⑤近大呉工学

◆第9回南九州学生選手権

《男子》

▽1回戦
熊本大 21—19 鹿児島大
沖縄国際大 31—20 琉球大
大分大 33—23 宮崎大

▽2回戦
熊本大 17—11 熊本商科大
大分大 35—30 沖縄国際大

▽決勝
大分大 24（2—1、2—1、13—12、7—8）22 熊本大

▽敗者復活戦・1回戦
鹿児島大 31—26 琉球大

▽2回戦
沖縄国際大 24—16 熊本商科大
鹿児島大 26—21 宮崎大

▽決勝
沖縄国際大 34（19—13、15—10）23 鹿児島大

HANDBALL SPECIAL

NEW

3063 ¥12,000

3064

3065

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。



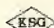
あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas®

The science of sport.



兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06・305・1431 〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03・634・1411

◇高校各ブロック大会②

◆北海道高校選手権

▽男子1回戦
旭川東 21（12－6 9－2）8 倶知安
八雲 37（24－11 13－7）18 室蘭栄
紋別北 11（6－4 5－5）9 札幌西
釧路東 21（10－10 11－2）12 室蘭東
帯広柏葉 17（9－7 8－9）16 恵庭南

▽同2回戦
釧路湖陵 27（14－7 13－3）10 旭川東
八雲 35（15－10 20－9）19 紋別北
釧路東 26（12－4 14－8）12 留萌
函館有斗 41（18－6 23－3）9 帯広柏葉

▽同準決勝
釧路湖陵 17（9－7 8－6）13 八雲
函館有斗 29（17－9 12－9）18 釧路東

▽同決勝
函館有斗 20（11－8 9－4）12 釧路湖陵

▽女子1回戦
上磯 14（8－5 6－3）8 白石
紋別北 14（7－7 7－5）12 登別

▽同2回戦
上磯 9（5－6 4－2）8 釧路商
室蘭東 12（5－6 7－1）7 古平
函館女商 25（14－7 11－1）3 恵庭南
釧路湖陵 25（11－3 14－2）5 紋別北

▽同準決勝
上磯 16（6－7 10－1）8 室蘭東
函館女商 14（5－1 9－1）2 釧路湖陵

▽同決勝
函館女商 17（10－2 7－3）5 上磯

◆第17回北信越高校選手権

（6月20、21日）

▽男子1回戦
上田（長野）27（9－4 18－7）11 科学技術（福井）
小松明峰（石川）28（13－6 15－3）9 柏崎（新潟）
羽水（福井）12（8－4 4－4）3 北佐久農（長野）
高岡向陵（富山）27（15－10 12－4）14 高志（福井）

▽同2回戦
氷見（富山）20（10－3 10－9）17 上田
北陸（福井）19（10－8 9－5）13 小松明峰
羽水 12（1－0 1－0 4－7 6－3）10 巻（新潟）
小松工（石川）26（16－5 10－6）11 高岡向陵

▽同準決勝
氷見 26（12－5 14－5）10 北陸
小松工 22（11－2 11－4）6 羽水

▽同決勝
氷見 19（8－9 11－6）15 小松工

▽女子1回戦
塩尻（長野）14（8－4 6－2）6 武生商（福井）
高岡向陵（富山）14（9－10 5－2）12 能生水産（新潟）
仁愛女（福井）12（7－7 5－3）10 小松商（石川）
美須々ケ丘（長野）9（5－1 4－4）5 北陸（福井）

▽同2回戦
小松市女（石川）18（7－0 11－2）2 塩尻
福井商（福井）14（6－3 8－6）9 高岡向陵
新潟江南（新潟）15（8－7 7－4）11 仁愛女
有磯（富山）24（12－1 12－2）3 美須々ケ丘

▽同準決勝
小松市女 23（11－1 12－2）3 福井商
有磯 19（10－6 9－3）9 新潟江南

▽同決勝
小松市女 16（8－7 8－1）8 有磯

◆第32回中国高校選手権

（5月11、12日）

▽男子1回戦
下松江（山口）40（21－11 19－6）17 広（広島）
総社（岡山）13（4－4 9－7）11 松江南（島根）
松江工（島根）20（12－7 8－6）13 呉港（広島）
倉敷天城（岡山）21（14－8 7－6）14 境港工（鳥取）
修道（広島）19（2－0 2－3 7－6 8－9）18 下関中央工（山口）
倉敷工（岡山）23（13－7 10－5）12 境（鳥取）
川本羽須美分校（島根）25（11－6 14－5）11 米子東（鳥取）
岩国（山口）23（9－8 14－2）10 尾道（広島）

▽同2回戦
下松工 39（20－6 19－3）9 総社
松江工 18（10－5 8－9）14 倉敷天城
修道 19（12－6 7－6）12 倉敷工
岩国 30（17－4 13－4）8 川本羽須美分校

▽同準決勝
下松工 35（17－10 18－5）15 松江工
岩国 17（9－7 8－9）16 修道

▽同決勝
下松工 22（12－10 10－7）17 岩国

▽女子1回戦
徳山（山口）19（13－3 6－2）5 落合（岡山）
山陽女（広島）25（15－2 10－4）6 米子南（鳥取）
比治山（広島）16（4－4 12－3）7 浜田商（島根）
真備（岡山）27（15－2 12－3）5 倉吉西（鳥取）
防府商（山口）17（9－7 8－4）11 松江一（島根）
清水ケ丘（広島）15（7－4 8－8）12 倉吉産（鳥取）
倉敷天城（岡山）9（4－2 5－4）6 松江市女（島根）
徳佐（山口）17（10－4 7－1）5 進徳（広島）

▽同2回戦
山陽女 14（6－3 8－4）7 徳山
比治山 10（6－6 4－2）8 真備
防府商 17（7－4 10－3）7 清水ケ丘
徳佐 18（10－6 8－2）8 倉敷天城

▽同準決勝
山陽女 16（9－1 7－2）3 比治山
防府商 6（3－4 3－1）5 徳佐

▽同決勝
山陽女 17（4－2 2－0 3－5 8－6）13 防府商


CIVIC

各地の記録

▼第31回全九州高校福岡県予選会（5月3、4日・久留米工大、久留米工大附属高校体育館）

▽男子準々決勝
久留米工大附 40－5 門司
小倉西 19－10 東海大五
福岡工 8－5 三池
若松 16－9 福岡

▽同準決勝
久留米工大附 21－14 小倉西
福岡工 11－8 若松

▽同決勝
福岡工 18（7－6、11－6）12 久留米工大附

▽女子準々決勝
東海大五 25－7 福岡女
香椎 15－10 浮羽
福岡 14－2 若松
筑紫女 8－6 春日

▽同準決勝
東海大五 19－8 香椎
筑紫女 11－4 福岡

▽同決勝
筑紫女 8（3－2、5－3）5 東海大五

▼茨城県高校春季大会（5月11、12日・麻生高）

▽男子準々決勝
笠間 19－18 竹園
麻生 20－6 水海道一
土浦工 39－17 岩井西
岩井 18－12 石岡一

▽同準決勝
麻生 14－13 笠間
土浦工 12－8 岩井

▽同3位決定戦
笠間 15－14 岩井

▽同決勝
麻生 18（8－5、7－10、3－0、0－1）16 土浦工

▽女子準々決勝
水海道二 23－6 結城二
鉾田二 12－4 竜ケ崎一
笠間 9－3 友部
麻生 9－7 太田二

▽同準決勝
水海道二 17－7 鉾田二
麻生 14－3 笠間

▽同3位決定戦
鉾田二 11－6 笠間

▽同決勝
水海道二 16（7－2、9－6）8 麻生

▼福岡市議長杯第6回一般選手権大会（6月24～27日・福岡市民体育館）

▽男子Aパート準決勝
エーブル 12－2 アシックス
シウラ 5－3 ゼット

▽同決勝
エーブル 15（6－3、9－6）9 シウラ

▽男子Bパート決勝
ベストワン 14（7－6、7－4）10 三鷹

▽男子Cパート決勝
西南クラブ 17（8－5、9－7）12 福工OB

▽女子Aパート決勝
三鷹 5（3－1、2－0）1 アシックス

▽女子Bパート決勝
筑女OG 15（8－2、7－2）4 香椎OG

▼全国クラブ大会富山県予選（6月28日・八尾高校）

▽一般男子準決勝
射水ク 14－13 八尾ク
氷見ク 30－14 北嶺会

▽同決勝
氷見ク 28（17－6、11－13）19 射水ク

▽一般女子決勝
高女OG 14（7－2、7－4）6 想球会

▼香川県中学総体（7月26、27日・高松市光洋中）

▽男子1回戦
桜町 11－10 光洋
山田 20－3 勝賀
塩江 26－7 香東

▽同準決勝
紫雲 20－9 桜町
山田 14－13 塩江

▽同決勝
紫雲 13（8－7、5－5）12 山田

▽女子1回戦
山田 15－5 桜町
塩江 15－1 玉藻
香東 18－4 紫雲

▽同準決勝
光洋 15－4 山田
香東 14－5 塩江

▽同決勝
香東 14（6－5、8－2）7 光洋

▼第33回福井県民体育大会（8月8、9日・羽水高、明倫中）

▽一般男子1回戦
武生市 15－13 敦賀市
福井市 24－10 鯖江市

▽同決勝
福井市 31（17－10、14－11）21 武生市

▽一般女子1回戦
武生市 11－10 福井市

▽同決勝
武生市 10（4－3、6－4）7 鯖江市

▽高校男子準決勝
北陸 21－14 羽水
高志 18－12 科学技術

▽同決勝
北陸 17（10－7、7－4）11 高志

▽高校女子準決勝
仁愛女 13－1 羽水
武生商 11－7 北陸

▽同決勝
仁愛女 13（6－1、7－0）1 武生商

〔編集後記〕第6回日本リーグの前期は、男女とも予想以上に混戦となった。男子は大同、湧永の二強に本田技研が善戦、女子も立石、ジャスコの全勝組を追うブラザーと後期が大変楽しみだ。7月号の表紙写真の提供は杉山務氏でした。お詫びして訂正します。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一九九号
昭和四十年六月　第三種郵便物認可
昭和五六年七月二十五日印刷
昭和五六年八月一日発行
都渋谷区神南一―一―
代表(467)七〇九七
東京　六―五八三四八番
編集兼発行人　荒川清美
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）